

令和7年度
教育に関する事務の管理及び
執行の状況の点検及び評価報告書

令和6年度事業分

八戸市教育委員会

— 目 次 —

I	教育委員会の活動状況	1
1	教育委員会の構成	3
2	会議の開催状況	3
3	その他の活動状況	3
II	点検及び評価	5
1	点検及び評価概要	7
2	施策の体系	8
3	施策ごとの点検及び評価	
	大施策 1 持続可能な社会を創るための資質・能力の育成	9
	大施策 2 共生社会の実現に向けた支援の充実	19
	大施策 3 学びを支える学習環境・指導体制等の整備	24
	大施策 4 地域の教育力向上と地域コミュニティの基盤強化	31
	大施策 5 文化財等の保存と活用の充実	40
III	学識経験者からの総評	47
IV	参考資料	51

I 教育委員会の活動状況

1 教育委員会の構成（令和7年3月31日現在）

職 名	氏 名	任 期	就任年月日
教育長	齋藤 信哉	令和 5 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 3 月 31 日	令和 5 年 4 月 1 日
委 員	福井 武久	令和 3 年 10 月 1 日～ 令和 7 年 9 月 30 日	令和 3 年 10 月 1 日
委 員	西山 康巳	令和 4 年 10 月 1 日～ 令和 8 年 9 月 30 日	令和 4 年 10 月 1 日
委 員	小澤 直子	令和 5 年 10 月 1 日～ 令和 9 年 9 月 30 日	令和 5 年 10 月 1 日
委 員	久保 千恵子	令和 6 年 10 月 1 日～ 令和 10 年 9 月 30 日	令和 6 年 10 月 1 日

2 会議の開催状況

会議は、毎月定例会を行い、必要に応じ臨時会を開催している。令和6年度は、合計43件の議案を審議した。

定例会	12 回
臨時会	11 回

議 案 内 容	
条例規則制定関係	10 件
人事関係（委員委嘱含む）	21 件
その他	12 件
合 計	43 件

3 その他の活動状況

教育委員会に関わる会議、研修会、式典に出席し、委員として活動した。

種別	主な内容	回数
会 議	市立学校長会議、総合教育会議等	2 回
研 修 会	市町村教育委員会委員研修会、定例研修会等	12 回
式 典	各小・中学校記念式典、各種関係団体式典、成人式等	3 回
学校訪問	学校訪問	43 回
そ の 他	教育委員会関連行事、各種視察等	21 回

このほか、教育行政の運営に関する基本方針や教育費予算等を協議案件として、適宜、会議を開催しており、事務局との意見交換や質疑応答、委員間での協議を行った。

さらに、各委員においては、各種団体との意見交換等に参加するとともに、随時、教育施設を訪問した。

Ⅱ 点検及び評価

1 点検及び評価概要

(1) 趣旨

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成19年法律第97号）により、平成20年4月1日から、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされています。

本報告書は、法律の趣旨に基づき、効果的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たすために、令和6年度の事務の点検・評価を行い、その結果をまとめたものです。

(2) 評価対象

本報告書の点検・評価は、令和6年2月に策定した第3期八戸市教育振興基本計画の施策の体系に基づき、令和6年度に教育委員会が実施した小施策を対象とし、29項目について評価しました。

(3) 点検及び評価の方法

① 各施策の評価

施策主管課が実施状況等をまとめ、次の4段階で評価しました。

評価区分	評価基準
a	想定以上の効果・成果が得られた。
b	想定どおりの効果・成果が得られた。
c	おおむね想定どおりの効果・成果が得られたが、改善の余地がある。
d	想定どおりの効果・成果が得られなかった。

② 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し、高い識見を有する学識経験者2名の方から、御意見をいただいています。

(4) 点検及び評価の結果

大施策	評価 項目数	評価			
		a	b	c	d
1 持続可能な社会を創るための資質・能力の育成	8	2	6	0	0
2 共生社会の実現に向けた支援の充実	4	0	4	0	0
3 学びを支える学習環境・指導体制等の整備	6	1	4	1	0
4 地域の教育力向上と地域コミュニティの基盤強化	6	0	6	0	0
5 文化財等の保存と活用の充実	5	2	3	0	0
合 計	29	5	23	1	0

2 施策の体系

大 施 策	中 施 策	小 施 策	評価
1 持続可能な社会を創るための資質・能力の育成	(1) 確かな学力の育成	① 次世代を担う人材育成	b
		② 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の展開	b
		③ 校種間連携の充実	b
	(2) 豊かな心の育成	① いのちの教育の充実	a
		② 体験学習の充実	b
		③ 読書活動の充実	a
	(3) 健やかな体の育成	① 学校保健・食育の充実	b
		② 体力の向上	b
2 共生社会の実現に向けた支援の充実	(1) 多様な教育ニーズへの対応	① 特別支援教育の充実	b
		② 子どもに関する相談・支援体制の充実	b
	(2) 経済的支援の充実	① 奨学金事業の充実	b
		② 就学前・高等学校教育への支援	b
3 学びを支える学習環境・指導体制等の整備	(1) 安全・安心な環境の整備	① 学校施設の整備	c
		② 学校規模・配置の適正化	b
		③ 防災教育の充実	b
	(2) 指導・運営体制の充実	① 教職員研修の充実	b
		② 支援スタッフの充実	b
		③ 教育D Xの推進	a
4 地域の教育力向上と地域コミュニティの基盤強化	(1) 学校・家庭・地域の連携・協働	① コミュニティ・スクールの推進	b
		② 家庭の教育力の向上	b
		③ スポーツ・文化的活動の支援	b
	(2) 生涯学習の充実	① 多様な学習機会の提供	b
		② 講座・展覧会等の開催	b
	(3) 社会教育施設の機能強化	① 社会教育施設の機能強化	b
5 文化財等の保存と活用の充実	(1) 文化財の保存活用	① 史跡の整備活用の推進	b
		② 文化財・名勝等の保存管理、活用の充実	a
		③ 民俗文化財の保存継承の充実	a
		④ 考古資料と遺跡の調査研究の充実	b
	(2) 歴史記録の保存活用	① 歴史記録の保存活用の充実	b

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	1 持続可能な社会を創るための資質・能力の育成
中 施 策	(1) 確かな学力の育成
小 施 策	❶ 次世代を担う人材育成
施策概要	地域社会でも国際社会でもグローバルな視点を持って活躍する、次世代を担う人材の育成に取り組みます。

主な事業	◆ 青少年海外派遣交流事業【教育指導課】 ◆ 教員海外派遣交流事業【教育指導課】 ◆ 南部藩ゆかりの都市との交流事業【教育指導課】 ◆ 国際理解教育・英語教育推進事業【総合教育センター】 ◆ こころのプロジェクト「夢の教室」事業【教育指導課】 ◆ STEAM教材開発事業【教育指導課】					
実績等	区 分		R5	R6		R7
			実績	目標・計画	実績	目標・計画
	①	青少年海外派遣交流事業 派遣先・派遣回数	中止	アメリカ ニューカレドニア 各1回	アメリカ 2回	アメリカ 2回
	②	南部藩ゆかりの都市との交流事業 派遣小学校数	40校	41校	40校	41校
	③	ALTの小・中1校当たり 平均訪問回数	74.3回	70回	75.8回	76回
実施内容	①令和6年度から青少年海外派遣交流事業の実施を再開した。当初、アメリカ合衆国とニューカレドニアへ派遣予定だったが、ニューカレドニアにおける暴動の影響や不安定な情勢などから、生徒の安全面等を考慮し、2回ともアメリカ合衆国へ派遣する形で実施した。 ②歴史的なつながりを有する遠野市への児童派遣及び遠野市児童の受入れを通じて、両市児童の相互交流を行った。 ③ALTが小学校から中学校への滑らかな接続を意識した指導ができるように、中学校区ごとにALTを配置した。 ③ALT月例会を行い、教員との円滑なコミュニケーションの取り方や効果的な指導方法についての情報を共有した。 ・中国蘭州市への教員海外派遣交流事業について、新型コロナウイルス感染症の世界的流行のため、令和6年度まで派遣を見合わせている。 ・こころのプロジェクト「夢の教室」は、2校で実施した。 講師：鶴岡剣太郎氏（スノーボード選手）、相澤優子氏（元バスケットボール選手） ・STEAM教材開発事業では、「深海探査技術」（4巻）・「北極の研究と船」（5巻）の中高生向け教材を作成した。					
総合評価	6年度		7年度	8年度	9年度	10年度
	b					
	（評価理由・課題） ・青少年海外派遣交流事業では、中学生を海外に派遣し、訪問国の歴史や伝統・文化等に対する理解を深めさせるとともに、ホームステイなどの交流により、次代を担う子どもたちの国際的な視野の拡大と国際理解教育の向上が図られた。 ・南部藩ゆかりの都市との交流事業では、遠野市との交流を通じて、ふるさとを愛する心を育み、児童の健全育成が図られた。 ・ALTを活用した外国語の授業により、国際理解教育と英語教育の充実が図られた。					

<p>今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年海外派遣交流事業を通して、訪問先の都市との友好を促進するとともに、国際的視野を広めて国際協調の精神を養い、次代の国づくり・まちづくりを担う青少年の健全育成を図る。 ・教員海外派遣交流事業については、今後の国際情勢等を踏まえ、実施の有無を含めて検討する。 ・南部藩ゆかりの都市との交流事業を通して、ふるさとを愛する心を育むとともに、児童の健全育成を図る。 ・より多くの授業にALTが関われるよう、学校規模や通勤ルートを考慮した配置を行う。 ・学校訪問を通して、ALTを活用した効果的な授業についての指導助言に努める。 ・海洋STEAM教材開発事業については、これまでに開発した教材を日常の授業づくりに生かすことができるよう、JAMSTECと連携して海洋STEAM教育ハンドブックを作成する。
---------------	---

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	1 持続可能な社会を創るための資質・能力の育成
中 施 策	(1) 確かな学力の育成
小 施 策	❷ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の展開
施策概要	市立小・中学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のための支援に取り組みます。

主 な 事 業	◆ 学校訪問（計画訪問・要請訪問） ◆ 学力実態調査の活用 ◆ 教科等研究委員制度 ◆ 国際理解教育・英語教育推進事業		【教育指導課】 【総合教育センター】 【総合教育センター】 【総合教育センター】				
実 績 等	区 分		R5	R6		R7	
			実績	目標・計画	実績	目標・計画	
	①	計画訪問校数	65校	65校	65校	65校	
	②	「学校の授業はよく分かる・ だいたい分かる。」と回答した 小6・中3の割合	90.6%	91%	91%	93%	
	③	委嘱した研究委員数・研究部会数	23人 7部会			18人 5部会	20人 6部会
	④	ALTの小・中1校当たり 平均訪問回数	74.3回			70回	75.8回
実 施 内 容	①②授業改善・授業力向上への指導助言を行うとともに、校内研修の支援を目的として、市立全小・中学校を対象に学校訪問を実施した。各学校における指導の状況や、学力実態調査及び「生活や学習についてのアンケート」の分析・対策について説明を受け、具体的な指導助言を行うとともに、八戸市「学校教育指導の方針と重点」を周知した。 ③教科等研究委員として18名に委嘱し、5部会による実践的研究を行い、その成果について小・中学校教育研究会や研修講座において情報発信した。 ④ALTが小学校から中学校への滑らかな接続を意識した指導ができるように、中学校区ごとにALTを配置した。 ④ALT月例会を行い、教員との円滑なコミュニケーションの取り方や効果的な指導方法についての情報を共有した。						
総 合 評 価	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度		
	b						
	(評価理由・課題) ・各校において、学習指導要領※の趣旨を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた校内研修や授業づくりが進み、各教科において授業の充実が図られた。 ・教科等研究委員による研究成果を、小・中学校教育研究会や研修講座等で活用することで、当市の教育課題解決に向けた指導方法等の周知が図られた。 ・ALTの指導力向上のため、月例会を通して語学指導に必要な知識・学習指導方法について情報交換したことで、教員との効果的な連携、児童生徒との円滑なコミュニケーションが図られ、児童生徒の学習意欲の向上につながった。 ※学習指導要領…文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準						
今 後 の 方 向 性	・今後も、市立全小・中学校を対象とした学校訪問や、教科等研究委員の積極的活用等により、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりを支援し、より一層各教科等における授業の充実を図る。 ・より多くの授業にALTが関われるよう、学校規模や通勤ルートを考慮した配置を継続して行う。 ・学校訪問を通して、ALTを活用した効果的な授業についての指導助言に努める。						

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	1 持続可能な社会を創るための資質・能力の育成
中 施 策	(1) 確かな学力の育成
小 施 策	❸ 校種間連携の充実
施策概要	「子どもの発達や学びの連続性」という視点で、幼稚園・保育所(園)・認定こども園と小学校、小学校と中学校の円滑な接続に向けた校種間連携の推進に取り組みます。

主な事業	◆ 幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小学校との連携推進事業 ◆ 小・中学校ジョイントスクール ◆ コミュニティ・スクール推進事業					【教育指導課】 【教育指導課】 【教育指導課】
実績等	区 分		R5	R6		R7
			実績	目標・計画	実績	目標・計画
	①	小学校での幼稚園・保育所(園)・認定こども園との交流・活動 参観実施率	61%	100%	97.6%	100%
	②	小・中学校間での情報交換・相互授業参観 実施率	100%	100%	100%	100%
	③	地域学校連携協議会 実施率	100%	100%	100%	100%
	④	学校支援ボランティア 延べ活動人数	41,339人	48,000人	28,463人	40,000人
実施内容	⑤	地域密着型教育コーディネーター 研修会 開催数	5 回	4 回	4 回	4 回
	①幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小学校の教職員間で相互参観や情報交換等を行うとともに、様々な交流活動を行った。また、「幼保小の架け橋プログラム」の作成を通じて、互いの教育内容・教育方法について情報交換を行った。 ②各中学校区で、小・中学校間の授業参観や情報交換、生活改善のための共同実践等を行った。 ③④各学校または中学校区ごとに、地域学校連携協議会を年間2～3回開催し、各学校の地域密着型教育コーディネーターを中心に、学校支援ボランティアも活用しながら地域学校協働活動を実施した。 ⑤地域密着型教育コーディネーターに対し、研修会を定期的に開催し、それぞれのスキルアップを図った。					
総合評価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	1 0 年度	
	b					
	(評価理由・課題) ・「幼保小の架け橋プログラム」作成を通じて、互いの教育内容・教育方法の相互理解が図られた。 ・各中学校区で相互の授業参観や交流を行い、児童生徒の情報交換や生活改善のための協働の研修や実践が行われた。 ・各学校にコミュニティ・スクールの考え方が浸透し、「地域とともにある学校づくり」が推進された。					
今後の方向性	・「幼保小の架け橋プログラム」を共有して、互いの教育内容と教育方法の充実を図る。 ・コミュニティ・スクール推進事業において、保護者及び地域住民が学校運営に参画する地域学校連携協議会（学校運営協議会）を通じて、学校・地域・家庭の連携・協働による「地域とともにある学校づくり」を推進する。 ・各学校に地域密着型教育コーディネーターを配置し、学校支援ボランティアの募集や支援内容の検討をするなど、地域学校協働活動の充実を図る。					

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	1 持続可能な社会を創るための資質・能力の育成
中 施 策	(2) 豊かな心の育成
小 施 策	❶ いのちの教育の充実
施策概要	道徳教育に加え、医師等の専門家を活用した「いのち」に関する教育活動を通じて、自他の生命の尊重や他者を思いやる心、自己肯定感などの育成に努めます。

主 な 事 業	◆ 学校飼育動物ネットワーク支援事業 【教育指導課】 ◆ いのちを育む教育アドバイザー事業 【総合教育センター】 ◆ ネット情報モラル支援事業 【教育指導課】				
実 績 等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	学校飼育動物「ふれあい指導」「適正管理指導」「獣医師による講話」開催小学校数	24校	41校	41校
	②	いのちを育む教育アドバイザー（医師）による講演会開催中学校数	24校	24校	24校
実 施 内 容	③	ネット情報モラル講演会開催校数	21校	24校	30校
	①動物を飼育している小学校では「ふれあい指導」及び「適正飼育管理指導」、動物を飼育していない小学校では「獣医師による講話」を市立全小学校で実施した。 ②「いのちを育む教育アドバイザー（医師）による講演会」は、対面式・オンライン式を併用しながら、市立全中学校で実施した。 ③外部講師だけではなく、指導主事等による講演をすることにより、目標以上の小・中学校で実施することができた。				
総 合 評 価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	a				
	（評価理由・課題） ・道徳科や他教科と関連付けた、獣医師による「ふれあい指導」や「いのちを育む教育アドバイザー」の医師による訪問指導、外部指導者等による「ネット情報モラル講演会」を通して、自他の生命を尊重する態度を含めた豊かな心の育成に資することができた。				
今 後 の 方 向 性	・学校飼育動物ネットワーク支援事業では、引き続き各種指導等を着実に実施するとともに、市立全小学校において学校獣医師による訪問指導を充実させることで、児童に豊かな心（思いやりの心、動物愛護・生命尊重の態度等）を育む。 ・いのちを育む教育アドバイザー事業では、講師である医師の確保等、苦慮する点もあるが、講演会の開催方法等に工夫を凝らしながら市立全中学校で実施することで、「命の尊厳」の教育を継続する。 ・ネット情報モラル支援事業では、今後もインターネットについての知見や適切な対処方法を身に付けることができるよう、小・中学校での研修会の開催を支援する。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	1 持続可能な社会を創るための資質・能力の育成
中 施 策	(2) 豊かな心の育成
小 施 策	❷ 体験学習の充実
施策概要	子どもたちの実感を伴った理解に資するとともに、地域に対する誇りや愛着を育むために、各学校が実施する体験学習やボランティア活動等を推進します。

主な事業	◆ 青少年の地域活動の推進事業 【教育指導課】 ◆ 広域的体験学習支援事業 【教育指導課】 ◆ 青少年海外派遣交流事業 【教育指導課】 ◆ 南部藩ゆかりの都市との交流事業 【教育指導課】 ◆ 体験！一日図書館員 【図書館】				
実績等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	中高生ボランティア延べ活動者数・登録者数	973人 3,085人	—	1,236人 2,573人
	②	広域的体験学習支援事業 利用件数・利用学校数（圏域）	120件 68校	129件 74校	143件 71校
	③	青少年海外派遣交流事業 派遣先・派遣回数	中止	アメリカ ニューカレドニア 各1回	アメリカ 2回
実施内容	④	南部藩ゆかりの都市との交流事業 派遣小学校数	40校	41校	40校
	①地域社会の一員としての自覚と関心を深めるため、中高生がボランティア活動を始めとする様々な地域活動に取り組むことができるよう支援を行った。 ②八戸圏域連携中枢都市圏内（八戸市、三戸郡内、おいらせ町）の小学生が体験学習を行う際や中学生が圏域内の企業や大学等を訪問する際のバス借上料の補助を行った。 ③令和6年度から青少年海外派遣交流事業の実施を再開した。当初、アメリカ合衆国とニューカレドニアへ派遣予定だったが、ニューカレドニアにおける暴動の影響や不安定な情勢などから、生徒の安全面等を考慮し、2回ともアメリカ合衆国へ派遣する形で実施した。 ④当市少年使節団を南部藩ゆかりの都市である遠野市へ派遣するとともに、遠野市使節団の受入れを行った。 ・体験！一日図書館員を4回実施し、計20名が参加した。				
	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
	（評価理由・課題） ・ボランティア意識の向上によって、中高生ボランティアの活動者数が増加した。 ・広域的体験学習支援事業を活用した体験学習や企業訪問の件数が増加した。 ・青少年海外派遣交流事業では、フェデラルウェイ市やポートランド市との交流活動やホームステイを通して、友好、親善を深めることができた。 ・南部藩ゆかりの都市との交流事業では、遠野市との相互交流を行ったことで、歴史的遺産を正しく継承し、ふるさとに対する誇りと愛着を育むことができた。				
今後の方向性	・今後もボランティア活動及び交流活動について更なる周知を図り、地域での体験活動への積極的な参加を促す。 ・各学校の実情に合わせ、地域の特色を生かした体験学習の実施を支援する。中学校の企業訪問等における広域的体験学習支援事業の積極的な活用を呼びかける。 ・令和7年度も他市との交流を図るとともに、ふるさとに対する誇りと愛着を育むため、青少年海外派遣交流事業及び南部藩ゆかりの都市との交流事業を継続して実施する。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	1 持続可能な社会を創るための資質・能力の育成
中 施 策	(2) 豊かな心の育成
小 施 策	❸ 読書活動の充実
施策概要	子どもたちが本に触れる機会を作るとともに、図書館及び学校図書館の機能向上と充実により、読書に親しむ環境づくりを推進します。

主な事業	◆ 学校図書館支援事業 ◆ マイブック推進事業 ◆ 「ひらく・楽しむ」新聞活用事業 ◆ 学校図書館ネットワーク事業 ◆ ブックスタート事業 ◆ 学校図書館出前講座 ◆ おはなし会 ◆ 読み聞かせボランティアの育成		【教育指導課】 【教育指導課】 【教育指導課】 【教育指導課】 【図書館】 【図書館】 【図書館】 【図書館】			
実績等	区 分		R5	R6		R7
			実績	目標・計画	実績	目標・計画
	①	学校司書 派遣校数	65校	65校	65校	65校
	②	マイブッククーポンを利用した児童の割合	99.5%	100%	99.3%	100%
	③	新聞活用出前講座 開催数	35回	30回	34回	30回
	④	学校図書館ネットワーク事業 学校図書貸出冊数・図書標準達成率 (整備すべき蔵書の標準に対する達成率)	692,551冊 87.0%	700,000冊 87.0%	628,646冊 84.8%	630,000冊 85.0%
	⑤	ブックスタートパック 配付数・配付率	1,107組 93.8%	95%	1,048組 97.9%	95%
	⑥	学校図書館出前講座	3 回	3 回	1 回	3 回
	⑦	おはなし会	177回 1,173人	130回 1,100人	132回 1,152人	140回 1,160人
	⑧	読み聞かせボランティアの育成	10回 74人	2回 40人	2回 33人	2回 40人
実施内容	① 学校司書13人を市立全小・中学校へ月3回程度派遣した。 ② 小学校及び特別支援学校の児童に、一人当たり2,000円分のブッククーポンを配付した。配付に当たり、ブッククーポンの利用促進のため、ブックリスト及び児童が親しみやすいポスターを作成し、利用率の向上を図った。また、小学校からの「出張ブックトーク」の希望が増え、7,304人の児童を対象に本の紹介や読み聞かせを行った。(261単位時間) ③ 市立全小・中学校に新聞を複数紙配備したほか、新聞社と連携し、新聞活用出前講座を開催した。 ④ 学校では、必要に応じ、学校図書館ネットワークを利用した学校間の図書の相互貸借が行われた。 ⑤ 総合健診センターで行われる乳児股関節脱臼検診時に読み聞かせを行い、絵本など(R6から農林畜産課のぬくもりつみきを追加)が入ったブックスタートパックを配付した。また、検診時に受け取れなかった対象者のうち54組には、図書館及び農林畜産課窓口で配付した。 ⑥ 図書館ボランティアや学校司書を対象に、本の修理や装備*について講座を開催した。 ⑦ 図書館本館が臨時休館中、八戸ブックセンターと連携し、おはなし会を実施した。また、おはなし会カードの取扱いを市内図書館3館及び八戸ブックセンターで共通にした。					

	<p>⑧ 講習会の内容や実施方法を見直し、読み聞かせに興味のある初心者（中学生以上）が参加できる形に変更し実施した。</p> <p>※図書館で資料を貸し出すために必要な、資料へのラベル貼りやカバー掛けなどの作業</p>				
総合評価	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	a				
	<p>（評価理由・課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校司書が13人になったことで市立全小・中学校に派遣が可能となり、蔵書の廃棄や更新が進んだとともに、学校図書館の環境が整うなど、学校図書館の活性化が図られた。 ・地元紙の新聞記者を講師とした新聞活用出前講座は、新聞や活字に対する児童生徒の興味を高めるとともに、効果的な国語科の学習やキャリア教育の視点に立った教育活動につながった。 ・ブックスタートやおはなし会を通して、多くの乳幼児や保護者に親子で本に触れ合える機会を提供することができた。 ・読み聞かせ講習会（初心者向け）の開催により、絵本や読み聞かせに関心を持つきっかけを作ることができた。 				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・読書・学習・情報センターとしての学校図書館の機能向上を図るとともに、児童生徒の読書活動や学習活動の充実に資するため、学校司書の更なる増員を目指す。 ・児童生徒が読書に親しむ環境を整備・充実させるため、八戸ブックセンターや市立図書館、学校司書と緊密な連携を図るとともに、マイブック推進事業における注文袋の効果的な活用方法について検討・改善を図る。 ・八戸ブックセンターや分館とも連携しながら、図書館へ来館するきっかけを増やし、読書活動の充実に資する。 				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	1 持続可能な社会を創るための資質・能力の育成
中 施 策	(3) 健やかな体の育成
小 施 策	❶ 学校保健・食育の充実
施策概要	子どもたちが生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力を育成することを目指し、学校保健活動及び食育を推進するとともに学校給食の充実を図ります。

主 な 事 業	◆ 学校保健委員会の設置・活用 【学校教育課】 ◆ 学校給食事業 【学校教育課】 ◆ 食育の推進 【学校教育課】				
実 績 等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	学校保健委員会 活用校数	65校	-	65校
	②	栄養教諭等の授業時間数・派遣校数	281時間 45校	-	304時間 47校
	③	給食センター見学実績	10回 194人	-	11回 285人
実 施 内 容	①学校訪問の際に、学校保健委員会の実施内容（テーマ、対象、講師、実施形態等）を確認し、学校医や保健師等の外部人材の活用や、コミュニティ・スクールでの情報共有など、家庭や地域を巻き込んだ効果的な取組の推進について指導助言した。 ②希望する学校に栄養教諭・学校栄養職員を派遣し、食事のマナーやバランスの良い食事、食事と勉強や運動との関係などについて、専門的立場から児童生徒に指導を行った。 ③充実した食育コーナーが設置される西地区給食センターはじめ、市内3か所の給食センターで児童生徒等の見学受入れを行った。 ・学校給食の充実や食育の拠点でもある給食センターについて、新学校給食センター整備を進めた。				
総 合 評 価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
	（評価理由・課題） ・指導助言を基に、各学校において、規則正しい生活習慣の確立や心身の健康づくり等をテーマとした学校保健活動が行われるなど、健康課題解決に向けた取組を推進することができた。 ・給食センター見学対応を実施し、学校給食を通じた食育を推進することができた。 ・新学校給食センター整備をスケジュールどおり推進することができた。				
今 後 の 方 向 性	・児童生徒の生活習慣の改善や心身の健康の保持増進を図るため、引き続き関係機関との連携を図るとともに、学校訪問や研修会の場で、各学校の実践例等について情報提供をし、学校と家庭や地域の連携を促す。 ・今後も給食センター見学の受入れを行い、食育の推進とともに学校給食への理解の深化を図る。 ・引き続き新学校給食センター整備をスケジュールどおり進める。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	1 持続可能な社会を創るための資質・能力の育成
中 施 策	(3) 健やかな体の育成
小 施 策	② 体力の向上
施策概要	子どもたちが運動やスポーツに親しみ、継続することにより、心身共に健康で幸福な生活を営むことができる資質・能力の育成を図ります。

主 な 事 業	◆「八戸市児童生徒の健康と体力」の刊行 【学校教育課】				
実 績 等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
①	小学校における体力向上に向けた取組実施学校数		41	-	41
実 施 内 容	①各学校に対して、体力・運動能力の向上に向けた取組について指導助言を行った。 ・『八戸市児童生徒の健康と体力』を、小・中学校、学校医及び関係機関等に電子データで配付した。				
総 合 評 価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
	(評価理由・課題) ・指導助言を基に、各小学校において、体育の授業内容の工夫や休み時間の遊びの場の工夫が行われるなど、体力向上に向けた取組を推進することができた。				
今 後 の 方 向 性	・児童生徒が健康で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう、新体力テスト等の結果を活用し、各学校の実態に応じた効果的な取組について、学校訪問等を通じて指導助言を行う。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	2 共生社会の実現に向けた支援の充実
中 施 策	(1) 多様な教育ニーズへの対応
小 施 策	❶ 特別支援教育の充実
施策概要	障がいのある子どもなど、特別な教育的支援を必要とする子どもたちに対し、個々の教育的ニーズに応じた支援体制の充実を図ります。

主 な 事 業	◆ 特別支援教育アシスト事業 【こども支援センター】 ◆ 特別支援教育推進事業 【こども支援センター】 ◆ 特別支援教育看護支援員配置事業 【こども支援センター】 ◆ 特別支援教育推進事業委託 【こども支援センター】				
実 績 等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	特別支援アシスタント 配置人数	80人	80人	80人
	②	特別支援アシスタント 配置校数/配置希望校数	60校/63校	—	61校/64校
	③	専門指導部相談 延べ回数	1631回	—	1334回
	④	幼児相談部相談 延べ回数	1940回	—	1950回
	⑤	特別支援教育看護支援員 配置人数	3人	10人	10人
実 施 内 容	①②支援を要する児童生徒が在籍する学校に対して特別支援アシスタントを配置し、本人、学校への支援を行った。また、新規に採用したアシスタントの支援の様子を参観し、本人や学校に対して指導助言を行った。 ③専門相談部は、小・中学校の要請に応じて巡回相談等を行い、個別の指導計画も活用しながら、学びにくさや集団への適応に難しさのある児童生徒を適切な支援につなげるために、学校及び教員に対して指導助言を行った。 ④幼児相談部は、園の要請に応じて巡回相談等を行い、集団への適応に難しさのある幼児を適切な支援につなげるために、園に対して指導助言を行った。 ⑤特別支援教育看護支援員を、小学校2校・中学校1校に配置し、医療的ケアを必要とする児童生徒の教育の機会を保障するとともに、学校・保護者・医師・支援員の4者が連携して、支援の充実を図った。				
総 合 評 価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
	(評価理由・課題) ・個々の教育的ニーズに応じた支援方法について、個別の指導計画の活用を含めて助言したことで、特別な支援を必要とする児童生徒への対応が教職員に共有され、PDCAサイクルを意識する学校が増えた。 ・スムーズな小学校就学に向けた巡回相談を幼児教育アドバイザーと共に実施することにより、各園での早期支援への意識の高まりが見られた。				
今 後 の 方 向 性	・教育的ニーズに応じた支援体制の充実を目指し、教育委員会内で連携しながら、特別支援アシスタントや特別支援教育看護支援員の適正な配置を行う。 ・総合保健センター内や市長部局の子どもに関わる関係機関との更なる連携を図るとともに、こども支援センターに配置された各アドバイザーの専門的な立場からの指導・支援を通して、未就学児から学齢期までの切れ目ない支援体制の構築を図る。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	2 共生社会の実現に向けた支援の充実
中 施 策	(1) 多様な教育ニーズへの対応
小 施 策	❷ 子どもに関する相談・支援体制の充実
施策概要	いじめや不登校のほか、子どもの貧困など、子どもたちが抱える様々な課題を解決するために、相談・支援体制の充実を図ります。

主 な 事 業	◆ 日本語教育支援事業 ◆ いじめの問題に対する取組 ◆ スクールソーシャルワーカー配置・派遣事業 ◆ 少年相談センター事業 ◆ 教育相談・適応指導教室事業 ◆ 教育支援事業					【学校教育課】 【教育指導課】 【教育指導課】 【教育指導課】 【こども支援センター】 【こども支援センター】	
実 績 等	区 分		R5	R6		R7	
			実績	目標・計画	実績	目標・計画	
	①	日本語教育受講者数	19人	—	20人	—	
	②	「いじめ問題等に関する対話集会」開催数	1 回	1 回	1 回	1 回	
	③	学 校 と スクールソーシャルワーカーとの情報交換・ケース会議数	1,832回	—	1,815回	—	
	④	少年相談センター相談件数	42件	—	61件	—	
実 施 内 容	⑤	教育相談延べ回数	7,394回	—	6,919回	—	
	①日本語を母国語としない児童生徒の学校生活への適応を図るため、小・中学校へ講師を派遣し、日本語の個別指導や生活習慣習得のための指導助言を行った。 ②子どもたちがいじめ問題について主体的に考えることを目的として、小学校代表者による「いじめ問題等に関する対話集会」を開催した。 ③④いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待などの課題に対して、スクールソーシャルワーカーを中心に、子どもや保護者、教職員等との相談を含めた支援を行うとともに、校内チーム体制の構築や関係機関等との情報共有、ケース会議を行った。 ④少年相談センターでは、不登校やいじめ問題に関する電話相談及び来所相談を実施した。 ⑤保護者からの子育て、教育、発達等に関する相談に対応するとともに、希望する保護者に対して、子どもへのより良い接し方について学びの場を提供した。 また、不登校状態が継続している小学校4年生以上の児童生徒のために適応指導教室を開設し、関係機関と連携しながら、個々の状態に応じた学習支援や集団指導（文化祭、遠足等の集団体験活動）を行った。						
総 合 評 価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	1 0 年度		
	b						
	(評価理由・課題) ・多様化・複雑化が進むニーズに対し、電話相談及び来所相談のほか、関係機関・団体等との緊密な連携で対応したことにより、青少年の問題行動の早期発見・早期対応につなげることができた。						
今 後 の 方 向 性	・子どもたちが抱える様々な課題の解決に向けた相談・支援体制の更なる充実を図る。 ・学校や関係機関等との連携、情報共有により、子どもや保護者への意識啓発や支援の充実に努める。						

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	2 共生社会の実現に向けた支援の充実
中 施 策	(2) 経済的支援の充実
小 施 策	❶ 奨学金事業の充実
施策概要	経済的理由により修学が困難な生徒に対し貸与又は給付している奨学金について、意欲のある誰もが学ぶことができるよう、給付型奨学金の拡充に努めます。

主 な 事 業	◆ 八戸市奨学金制度 【学校教育課】 給付型奨学金 高校：月額 2 万円、大学：月額 4 万円 貸与型奨学金 高校：月額 2 万円以内、大学・専修学校：月額 4 万円以内				
実 績 等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	募集人員／決定人数 (給付型奨学金・高校)	15人/14人 (応募15人) 【再募集】 1人/3人 (応募7人)	15人/15人	15人/15人 (応募29人)
	②	募集人員／決定人数 (給付型奨学金・大学)	17人/15人 (応募27人)	25人/25人	25人/23人 (応募54人)
	③	募集人員／決定人数 (貸与型奨学金・高校)	20人/2人 (応募3人) 【再募集】 9人/2人 (応募2人)	20人/20人	20人/3人 (応募4人) 【再募集】 8人/1人 (応募1人)
	④	募集人員／決定人数 (貸与型奨学金・大学)	30人/5人 (応募11人) 【再募集】 17人/2人 (応募4人)	30人/30人	30人/11人 (応募22人) 【再募集】 12人/2人 (応募2人)
	⑤	募集人員／決定人数 (貸与型奨学金・専修学校)	5人/0人 (応募0人)	5人/5人	5人/0人 (応募0人)
実 施 内 容	八戸市奨学金制度の統合再編により、令和 6 年度から、給付型奨学金と貸与型奨学金の 2 種類の奨学金制度としてリニューアルした。リニューアル内容及び奨学生の募集を広く周知するため、市長記者会見や市広報誌への掲載のほか、市ホームページ、市公式 SNS を活用した。 ①②平成27年度から償還義務のない給付型奨学金制度（予約採用のみ）を導入しており、進学・修学の状況を確認し、奨学金の給付を実施した。近年の実績を考慮し、ニーズが高まっていることから、大学卒の募集人数を拡大して実施した。大学卒では、希望する学校に進学できず、辞退した者が出たため、結果的に定員割れとなった。 ③④⑤進学・修学機会の充実に資するため、市出身の優秀な生徒等で、経済的な理由により修学困難な者に学資を貸与した。③の学業成績要件を緩和したほか、貸与額を 1 万円単位で選択できるように変更するなど改善を図った。③④については定員割れが生じたため、再募集を実施した。 ・給付型奨学金制度の拡充により、給付型奨学金と貸与型奨学金の合計決定数は43人から55人に増加し、支援拡充が図られた。				
評 価 総 合	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	1 0 年度
	b				

	<p>(評価理由・課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的な理由により、進学・修学が困難な生徒等に対して支援が図られた。 ・ニーズの高い給付型奨学金(大学卒)の募集人数を増やしたほか、定員割れが生じた奨学金については再募集を行うなど、ニーズに即した奨学金制度の運用を行うことができた。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学生の募集に当たり、『広報はちのへ』や市ホームページへの掲載のほか、市公式SNSを活用するなど、引き続き周知に努める。 ・奨学金事業の資金として寄附金等を積立している「奨学ゆめ基金」の残高の推移を勘案しながら、計画的に事業を実施する。 ・近年の応募状況等を考慮し、「奨学ゆめ基金」の状況を見ながら、給付型奨学金の拡充や貸与型奨学金の募集人数等を検討する。

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	2 共生社会の実現に向けた支援の充実
中 施 策	(2) 経済的支援の充実
小 施 策	② 就学前・高等学校教育への支援
施策概要	<p>幼児教育の振興と充実を図るため、学校法人が設置する私立幼稚園及び認定こども園に対して教育環境等の整備に向けた支援を行います。</p> <p>高等学校教育の振興と充実を図るため、私立高等学校及び私立中高一貫校に対して教育環境等の整備に向けた支援を行います。</p>

主な事業	<p>◆ 私立幼稚園補助金制度 【学校教育課】</p> <p>◆ 私立幼稚園教員研修費補助金制度 【学校教育課】</p> <p>◆ 私立高等学校助成補助金制度 【学校教育課】</p>				
実績等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	私立幼稚園 補助金額 ・ 園数	8,210,574円 20園	— 20園	13,588,590円 20園
	②	私立幼稚園協会 研修補助金額・研修回数	300,000円 9回	—	251,900円 9回
実施内容	③	私立高等学校 助成補助金額・学校数	3,091,680円 6校	— 6校	3,105,000円 6校
	<p>①市内の学校法人が設置する私立幼稚園及び認定こども園に対して、教材、教育備品、施設等の整備に要する経費についての補助を行った。</p> <p>②八戸市私立幼稚園協会に対して、教員の各種研修の開催及び「ようちえんの広場※」の実施に要する経費についての補助を行った。</p> <p>③市内の私立高等学校及び中高一貫校に対して、授業で使用する教材、教育備品、施設等の整備に要する経費についての補助を行った。</p> <p>※ようちえんの広場…市民、幼児等を対象とした幼稚園教育の重要性と私立幼稚園について理解を深めるイベント。</p>				
	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
総合評価	<p>(評価理由・課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園及び認定こども園並びに八戸市私立幼稚園協会に対して支援を継続することにより、教育環境等が整備され、幼児教育の振興と充実が図られた。 ・私学の特色ある教育の振興のため、市内の私立高等学校及び中高一貫校に補助を行ったことにより、各校のより良い環境づくりに寄与した。 				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育のより良い人的・物的環境づくりに役立てられるよう、引き続き私立幼稚園等及び私立幼稚園協会への支援を行う。 ・市内の私立高等学校及び中高一貫校のより良い教育環境づくりに役立てられるよう、引き続き支援を行う。 				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	3 学びを支える学習環境・指導体制等の整備
中 施 策	(1) 安全・安心な環境の整備
小 施 策	❶ 学校施設の整備
施策概要	子どもたちの安全な教育環境を維持するため、施設の安全・維持管理の取組を推進します。

主 な 事 業	◆学校施設の長寿命化の推進 【教育総務課】				
実 績 等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	長寿命化事業に係る修繕・工事件数	320件 714件	357件 714件	320件 723件
	②	長寿命化事業に係る維持管理業務委託件数	122件	122件	154件
実 施 内 容	①学校施設の危険な箇所の改修や老朽化した箇所の修理などの営繕を実施した。また、旭ヶ丘小学校、東中学校の校舎トイレの洋式化、青潮小学校屋内運動場屋上改修、小・中学校の普通教室等への冷房設備設置工事を実施した。 ②小・中学校施設の維持管理業務（清掃、警備、設備点検及び危険樹木の伐採や剪定など）を実施した。 ※修繕…「現状維持・回復」が目的であり、改修範囲は限定的なもの 工事…「性能・価値の向上」が目的であり、改修範囲は大規模なもの				
総 合 評 価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	C				
	（評価理由・課題） ・予算計上どおりに施設の改修・維持管理を実施し、子どもたちの安全・安心な教育環境を整備できた。 ・学校施設の老朽化が進行しており、緊急性と優先度を見極めながら改修を進めていく必要がある。				
今 後 の 方 向 性	・長寿命化の改修規模を明確化して、予算を確保しながら対処する。 ・人口減少や少子化を踏まえつつ、学校施設の老朽化に対応するため、学校適正配置と長寿命化計画の両面から子どもたちのより良い教育環境の整備を行う。 ・長寿命化計画に係る関係課との会議や学校適正配置に係る地域との会議において、情報共有を図り相互理解を深める。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	3 学びを支える学習環境・指導体制等の整備
中 施 策	(1) 安全・安心な環境の整備
小 施 策	② 学校規模・配置の適正化
施策概要	少子化による児童生徒数の減少により、学校の小規模化が進んでいることから、子どもたちが集団の中で切磋琢磨できる教育環境を整えるため、学校統合等による学校の規模・配置の適正化に取り組みます。

主 な 事 業	◆ 小・中学校適正規模・配置事業 【学校教育課】				
実 績 等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	小・中学校適正配置に係る 会議の開催	0回	－	9回
実 施 内 容	・ 令和6年3月に策定した「八戸市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針・検討課題（改定版）」に基づき、検討開始の優先度が最も高いと位置付けられた学校において、勉強会や意見交換会を実施した。				
総 合 評 価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
	（評価理由・課題） ・ 検討開始の優先度が最も高い学校の保護者及び地域の代表者と、現状及び将来の見通しを共有することができた。				
今 後 の 方 向 性	・ 引き続き検討開始の優先度が最も高い学校において、検討を進める。 ・ 他の優先度が高い学校についても検討に着手する。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	3 学びを支える学習環境・指導体制等の整備
中 施 策	(1) 安全・安心な環境の整備
小 施 策	❸ 防災教育の充実
施策概要	災害発生時における適切な判断力と行動力を身に付け、自らの命を守る意識の向上を図ります。

主 な 事 業	◆ 防災教室支援事業 【教育指導課】 ◆ 防災教育副読本導入事業 【教育指導課】				
実 績 等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	防災教室への講師派遣校数	21校	15校	12校
	②	防災ノート 配付冊数	5,922冊	6,000冊	5,776冊
実 施 内 容	①小・中学校からの要請に応じて、八戸工業大学や青森県防災士会等から講師を派遣し、防災教室の開催を支援した。 ②八戸市独自の防災教育副読本（防災ノート）を全児童生徒に配布し、各小・中学校において避難訓練や防災教室等で活用した。				
総 合 評 価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
	（評価理由・課題） ・防災教室の開催及び防災ノートの活用により、児童生徒の「自らの命は自ら守る」という防災意識が高まった。また、地域学校連携協議会においても「安全・安心」について話し合うなど、地域や大学等の関係機関と連携・協働した取組が進んだ。 ・地域住民と連携して防災訓練に取り組むなど、防災意識が高まった。				
今 後 の 方 向 性	・学校や地域の実態に応じた防災教育の充実を図るため、コミュニティ・スクールの仕組みも活用しながら、地域や家庭との連携をより一層進める。 ・防災ノートを基にした教師用データを用いるなどして、授業において1人1台端末を効果的に取り入れることで、防災教育の充実を図る。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	3 学びを支える学習環境・指導体制等の整備
中 施 策	(2) 指導・運営体制の充実
小 施 策	❶ 教職員研修の充実
施策概要	教職員一人一人の意欲や資質・能力の向上につながる研修等の拡充に取り組むことにより、魅力ある質の高い教職員集団の形成を図ります。

主 な 事 業	◆ 小学校英語専科指導教員研修会 【教育指導課】 ◆ 教職員研修事業 【総合教育センター】				
実 績 等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	初任者研修 受講者数・研修講座数	36人 13回	33人 14回	33人 14回
	②	中堅教諭等資質向上研修 受講者数・研修講座数	42人 11回	71人 9回	71人 9回
	③	職務研修 延べ受講者数・研修講座数	291人 8回	280人 9回	283人 9回
実 施 内 容	④	選択研修 延べ受講者数・研修講座数	1395人 33回	1300人 33回	1386人 33回
	①新規採用教員に対して、教職に関する基礎的素養と実践的指導力を養うため、「学級経営基礎講座」等を実施した。 ②中堅教諭としての資質向上の意識を高めるため、前期は児童生徒や保護者への組織的な対応、後期は学校運営というように、キャリアステージに応じた内容の講座を実施した。 ③管理職として「コミュニティ・スクール」の理解を深め、「地域とともにある学校づくり」を推進するための取組について学ぶ「学校経営校長研修講座」等を実施した。 ④問題解決的な学習を取り入れた授業づくりについて、実践事例などを基に具体的に学び指導力向上を図る「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり研修講座」等を実施した。 ・小学校英語専科指導教員研修会を年6回実施し、専科教員の授業づくりを支援した。				
	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
	(評価理由・課題) ・受講者アンケートにおいて、「生徒と信頼関係を築くために大切なことを学んだので、これからの生徒との関わり方に生かしていきたい。」「日頃から疑問に思っていたことを解決する手がかりを得ることができたので、今後の自分の実践に生かしていきたい。」「数多くの実践を教えていただき、今抱えている課題が解決に向かいそうなので、できることから実践していきたい。」などの意見が寄せられたことが示すように、課題解決や資質向上につながる研修の充実が図られた。				
今 後 の 方 向 性	・今後も教職員の職責やキャリアステージ等に応じた資質の向上を目指し、受講者アンケートや学校訪問等を通して現代的な課題や学校課題の把握に努め、課題解決に必要な研修講座の設定と内容の更なる充実を図る。 ・教職員の研修の質を確保するため、今後も県教育委員会や弘前大学教職大学院等と連携して研修講座を運営する。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	3 学びを支える学習環境・指導体制等の整備
中 施 策	(2) 指導・運営体制の充実
小 施 策	② 支援スタッフの充実
施策概要	質の高い教育の実現や複雑化・困難化する教育課題に対応するため、観察実験アシスタントやスクールソーシャルワーカー等の支援スタッフの配置を拡充します。

主 な 事 業	◆ 理科観察実験支援事業 ◆ 国際理解教育・英語教育推進事業 ◆ 学校図書館支援事業 ◆ 日本語教育支援事業 ◆ スクールソーシャルワーカー配置・派遣事業 ◆ 小・中学校スポーツ文化的活動支援事業					【総合教育センター】 【総合教育センター】 【教育指導課】 【学校教育課】 【教育指導課】 【学校教育課】				
実 績 等	区 分				R5	R6		R7		
					実績	目標・計画	実績	目標・計画		
	①	観察実験アシスタント派遣回数	536回	550回	613回	600回				
	②	ALTの小・中1校当たり 平均訪問回数	74.3回	70回	75.8回	76回				
	③	学校司書 派遣校数	65校	65校	65校	65校				
	④	日本語教育受講者数	19人	—	20人	—				
	⑤	学 校 と スクールソーシャルワーカー との情報交換・ケース会議数	1,832回	—	1,815回	—				
	⑥	スクールソーシャルワーカー 配置数	6人	6人	6人	6人				
⑦	部活動指導員 配置人数・校数	10人 9 校	—	13人 10校	13人 12校					
実 施 内 容	①観察実験アシスタント（教員免許状を有する職員）を小学校に派遣し、理科室や理科準備室等の環境整備、理科の観察・実験活動の準備、調整、片付け等の支援を行った。 ②ALTが小学校から中学校への滑らかな接続を意識した指導ができるように、中学校区ごとにALTを配置した。 ③学校司書13人を市立全小・中学校へ月3回程度派遣した。 ④日本語を母国語としない児童生徒の学校生活への適応を図るため、小・中学校へ講師を派遣し、日本語の個別指導や生活習慣習得のための指導助言を行った。 ⑤いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待などの課題に対して、スクールソーシャルワーカーを中心に、児童生徒や保護者、教職員等との相談を含めた支援を行うとともに、校内チーム体制の構築や関係機関等との連携・調整を行った。 ⑦指導体制の充実及び質的向上を図るとともに、教職員の負担軽減を推進することにより、適切な部活動運営に向けた環境づくりを行うことを目的として、希望する市立中学校に部活動指導員を配置した。									
総 合 評 価	6 年度		7 年度		8 年度		9 年度		1 0 年度	
	b									
	(評価理由・課題) ・各種支援スタッフの配置・活用を通して、教職員の負担軽減が図られるとともに教育課題の解決に寄与した。									

<p>今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ より多くの授業にALTが関われるよう、学校規模や通勤ルートを考慮した配置を行う。 ・ 学校訪問を通して、ALTを活用した効果的な授業についての指導助言に努める。 ・ 読書・学習・情報センターとしての学校図書館の機能向上を図るとともに、児童生徒の読書活動や学習活動の充実に資するため、学校司書の更なる増員を目指す。 ・ 子どもたちが抱える様々な課題の解決に向けた相談・支援体制の更なる充実を図る。 ・ 部活動指導員の配置校数を増やし、適切な部活動運営に向けた環境づくりを継続していく。
---------------	---

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	3 学びを支える学習環境・指導体制等の整備
中 施 策	(2) 指導・運営体制の充実
小 施 策	❸ 教育DXの推進
施策概要	教職員の負担軽減と教育におけるデジタル分野の連携・分析・利活用を促進するため、教育DXを推進します。

主 な 事 業	◆ GIGAスクール構想推進事業 【総合教育センター】 ◆ 校務DXの推進 【総合教育センター】					
実 績 等	区 分		R5	R6		R7
			実績	目標・計画	実績	目標・計画
	①	情報管理研修会 開催数	2 回	1 回	1 回	1 回
	②	要請訪問 回数	3 回	10回	18回	10回
	③	ICT活用指導力の向上に関連する講座 開催数	9 回	6 回	5 回	5 回
	④	授業中にICTを活用して指導できる教員の割合	79%	80%	91%	85%
実 施 内 容	①年度末におけるアカウント管理や異動処理を円滑に行うため、研修会をオンラインで開催し、各学校の教頭及びICTリーダーに対して操作方法等を周知した。 ②③1人1台端末の効果的な活用方法や学校DXを推進するための具体的な助言を行った。 ④「授業中にICTを活用して指導できる」と回答した教員の割合は91%であり、昨年度より12%上昇した。					
総 合 評 価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	1 0 年度	
	a					
	(評価理由・課題) ・教員のニーズに合わせた研修講座や要請訪問を適切に行ったことで、教職員のICT活用指導力の向上が図られた。 ・教員のICT活用が進んでいる一方で、児童生徒においては、授業や課題の実施などの様々な場面で、1人1台端末を活用する機会を増やす余地がある。					
今 後 の 方 向 性	・教育DXを推進していくために、クラウド化された次世代型校務支援システムの導入について検討を進める。 ・教員によるICT活用指導力の差を埋めるための、指導・支援体制の充実に努める。 ・1人1台端末について、令和7年度は中学校分5,676台（予備機含む）を更新予定である。					

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	4 地域の教育力向上と地域コミュニティの基盤強化
中 施 策	(1) 学校・家庭・地域の連携・協働
小 施 策	❶ コミュニティ・スクールの推進
施策概要	学校・家庭・地域が連携・協働して「地域とともにある学校づくり」を推進します。

主 な 事 業	◆ コミュニティ・スクール推進事業 【教育指導課】 ◆ 学校等出前講座の開催 【社会教育課・是川縄文館・博物館】				
実 績 等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	地域学校連携協議会 実施率	100%	100%	100%
	②	学校支援ボランティア 延べ活動人数	41,339人	48,000人	28,463人
	③	地域密着型教育コーディネーター 研修会 開催数	5 回	4 回	4 回
実 施 内 容	④	学校出前講座 開催数	28回	30回	48回
	学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを守り、育てる仕組みを充実・発展させていくことを目指し、R6 年度よりコミュニティ・スクールを全ての市立小・中学校に導入した。 ①各学校又は中学校区において、地域学校連携協議会を年間2～3回実施した。 ②学校支援ボランティアの協力によって、各学校の特色ある教育活動が行われた。 ③地域密着型教育コーディネーターのスキルアップを図るための研修会を定期的に行った。 ④各課・各館において学校出前講座を開催した。 ・社会教育課 … 市内小学校・認定こども園・保育園・幼稚園で、保護者・教職員・園児・児童を対象に家庭教育や子育てをテーマに講座を開催（計25回） ・是川縄文館 … 江南小学校への出前授業や是川中学校での野焼き等を実施（計6回） ・博物館 … 市内外の小・中学校及び特別支援学校の計12校において、民俗芸能「えんぶり」や「昔の暮らし」をテーマとした出前講座を実施（計17回）				
	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
	（評価理由・課題） ・地域学校連携協議会を通じて、地域住民等と学校との連携・協働による「開かれた学校づくり」が進められた。 ・学校支援ボランティアによる安全・安心な学校・地域づくりや地域人材の活用、情報発信等、各学校の実情に合わせた活動の工夫が見られた。 ・学校出前講座を通して、子どもたちが様々な分野に興味をもち、「自ら考え、判断し、表現する力」や「情報活用力」を養う場を提供することができた。 ・通園、通学先で出前講座を実施することにより、家庭教育や子育てに関する情報及び体験を地域コミュニティにおいて共有する機会を提供することができた。				
総 合 評 価					

<p>今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者及び地域住民が学校運営に参画する「地域学校連携協議会」を通じて、学校・家庭・地域の連携・協働による「地域とともにある学校づくり」を推進する。 ・各学校に地域密着型教育コーディネーターを配置し、学校支援ボランティアの活用等により「地域学校協働活動」を支援する。 ・今後も学校出前講座の内容改善を図り、子どもたちが幅広い知識を身に付け、継続して学ぶことに興味をもつことができる環境の充実に努める。 ・令和7年度も学校出前講座により、学校・家庭・地域が連携して子どもを育むコミュニティ形成につながる学習機会の提供を継続する。 ・博物館は、令和7年10月からリニューアル等改修工事のため休館し、学校の見学・体験学習の受入れが休止となることから、学校に対して出前講座を積極的にPRする。
---------------	--

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	4 地域の教育力向上と地域コミュニティの基盤強化
中 施 策	(1) 学校・家庭・地域の連携・協働
小 施 策	❷ 家庭の教育力の向上
施策概要	保護者等を対象に家庭教育に関する研修会等を開催するなど、学校等の関係機関と地域が連携しながら家庭における教育力の充実を図ります。

主 な 事 業	◆ 家庭の教育力充実事業 【社会教育課・図書館・博物館】				
実 績 等	区 分		R5	R6	
			実績	目標	実績
	①	社会教育課 家庭教育研修会 受講者数・講座等開催数	413人 2回	400人 2回	342人 2回
	②	社会教育課 子育て・親育ち講座 参加者数・講座等開催数	4,819人 21回	2,000人 12回	4,339人 25回
	③	図書館 参加者数・講座等開催数	58人 6回	30人 2回	27人 2回
	④	博物館 参加者数・講座等開催数	154人 10回	200人 10回	155人 10回
実 施 内 容	⑤	なんごうあそびのひろば 参加者数・講座等開催数	18人 4回	20人 4回	30人 4回
	① 家庭の教育力の向上を図るため、保護者、教育関係者及び一般市民を対象に「家庭教育に関する講演会」を八戸市民大学講座と併催し、全2回開催した。				
	② 幼稚園・保育所(園)・認定こども園、小・中学校を実施主体とした、「子育て・親育ち講座」を全25回開催した。保護者が参加しやすいよう、一部の小学校では参観日と合わせて開催した。				
	③ 本館が臨時休館のため、「調べる学習チャレンジ講座」を南郷図書館で開催した。南郷図書館では、「NAN号てんもん教室」を1回開催した。				
	④ 博物館では、親子参加型の体験講座「博物館クラブ」を10回開催した。				
	⑤ 南郷歴史民俗資料館では、遊びを通して親子で文化を学べる体験講座「なんごうあそびのひろば」を4回開催した。				
総 合 評 価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
	(評価理由・課題) ・各種研修会や講座等を通じて、子どもの発達段階における家庭の役割について理解を深める機会を提供するとともに、家族が触れ合う時間を創出することにより、親子関係の重要性を再確認する場を確保することができた。				
今 後 の 方 向 性	・今後も、講座のテーマ設定や周知方法について工夫を重ねながら、保護者や子ども、教職員がともに参加できる機会の確保と内容の充実に努める。 また、幼稚園・保育所(園)、認定こども園、小・中学校のPTA組織など関係機関との連携を深めることにより、講座開催への支援体制を整え、より多くの方々が参加できる学びの場を継続して提供するよう努める。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	4 地域の教育力向上と地域コミュニティの基盤強化
中 施 策	(1) 学校・家庭・地域の連携・協働
小 施 策	③ スポーツ・文化的活動の支援
施策概要	子どもたちがスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができる環境づくりについて一体的に推進します。

主 な 事 業	◆ 小・中学校スポーツ・文化的活動支援事業 【学校教育課】				
実 績 等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	部活動指導員の配置人数・校数	10人 9校	—	13人 10校
	②	八戸市地域スポーツ・文化芸術活動 検討協議会の実施回数	4回	—	4回
	③	合同部活動の試行回数	0回	—	13回
実 施 内 容	①指導体制の充実及び質的向上を図るとともに、教職員の負担軽減を推進し、適切な部活動運営に向けた環境づくりを行うことを目的として、希望する市立中学校に部活動指導員を配置した。 ②中学校部活動の地域展開を円滑に進めるため、合同部活動の試行や地域展開の実態把握のためのアンケート調査を実施し、検討課題を洗い出すなどの協議を実施した。 ③地域クラブ活動への移行の土台づくりを目的として、八戸学院大学の学生や地域の指導者等を講師とし、市内の陸上競技部と美術部・総合文化部の合同での部活動を実施した。				
総 合 評 価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
	(評価理由・課題) ・前年度に比べ、部活動指導員の配置校数が増加した。 ・検討協議会での協議をもとに行われた合同部活動の試行では、参加生徒の意欲向上がみられた。また、部活動の地域展開の実態把握のためにアンケート調査を実施し、検討課題を確認することができた。				
今 後 の 方 向 性	・部活動指導員の配置校数を増やし、適切な部活動運営に向けた環境づくりを継続していく。 ・今年度も、八戸市地域スポーツ・文化芸術活動検討協議会を設置し、引き続き、中学校部活動の地域展開を円滑に進めるため、検討課題に関する協議を進めていく。 ・合同部活動の実施種目や実施回数の拡充を図るとともに、国の実証事業の試行を行い、スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会の増加を図る。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	4 地域の教育力向上と地域コミュニティの基盤強化
中 施 策	(2) 生涯学習の充実
小 施 策	❶ 多様な学習機会の提供
施策概要	公開講座や文化芸術活動などにより、学ぶことの充実感を得られるよう、様々な学びの場を提供します。

主 な 事 業	◆ 八戸市民大学講座		【社会教育課】			
	◆ 公民館講座の開催		【社会教育課】			
実 績 等	◆ 市民公開研修の開催		【総合教育センター】			
	◆ 児童科学館各種体験活動		【総合教育センター】			
	◆ 青少年のための科学の祭典 八戸大会		【総合教育センター】			
	◆ 視聴覚センター各種体験活動		【総合教育センター】			
	◆ 図書館の利用促進		【図書館】			
	◆ 「調べる学習コンクール」の開催		【図書館】			
実 施 内 容	①生涯学習の場として各分野における専門家や当市に縁のある方などを講師に迎えた講座を開催した。 期間：5月22日～11月26日／実施回数：10回／会場：SG GROUPホールはちのへ（八戸市公会堂、八戸市公民館）					
	②各地区公民館で各種講座を開催した。 公民館活動教室、青年学級、女性学級、高齢者教室、市民学校、家庭教育学級、移動公民館、市民IT講習会					
	③各地区公民館、総合教育センターでICT講習会を開催した。					
	公民館	市民IT講習会（721人） 121回開催				
	博物館	市民プログラミング教室（19人） 1回開催 市民パソコン教室（53人） 4回開催				
	⑤科学の祭典では、44種類のブースを展開し、計2日開催した。各種実験を見られるようWeb上に動画を掲載した。					
	⑥視聴覚センターでは、映像の活用や講演を交えた映像利用学習会を実施した。					
	⑦図書館で「図書館150周年記念展『図書館エトセトラ』」等、テーマ展示を42回実施した。					
	⑧八戸市立図書館創立150周年記念事業の一環として、「150周年記念特別賞」を創設し実施した。全国コンクールへ推薦した2作品が佳作入選した。					

	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	1 0 年度
総合評価	b				
	(評価理由・課題) ・市民が多様な教養や知識を身に付けるための生涯にわたる学習の機会を得られるよう、専門的な講義や幅広い内容の講座を提供することができた。				
今後の方向性	・市民の生涯学習の充実を図るため、社会の変化に対応しながら、市民大学講座の開設や多彩な学習機会の提供に努める。これにより、市民が興味・関心を持ち、豊かな教養を養える環境を整備し、地域全体の知的好奇心と生きがいづくりに寄与する。特に、幅広い世代に対応した企画や、全ての世代が継続して学び続けられる場を提供する。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	4 地域の教育力向上と地域コミュニティの基盤強化
中 施 策	(2) 生涯学習の充実
小 施 策	❷ 講座・展覧会等の開催
施策概要	社会教育施設等を活用した展示・学習会・講座等を通じて、広く市民に学びの場を提供します。

主 な 事 業	◆ 学校等出前講座の開催		【社会教育課・是川縄文館・博物館】			
	◆ 市民のための歴史講座		【図書館・博物館】			
	◆ 是川縄文館各種展覧会・体験講座等開催事業		【是川縄文館】			
	◆ 図書館各種展示・行事開催事業		【図書館】			
	◆ 古文書解読講習会		【図書館】			
	◆ 博物館・南郷歴史民俗資料館各種展覧会・体験講座等開催事業		【博物館】			
	◆ 読み聞かせボランティアの育成		【図書館】			
実 績 等	区 分		R5	R6		R7
			実績	目標・計画	実績	目標・計画
	①	学校等出前講座 開催数	24回	13回	48回	45回
	②	市史・歴史講座 参加者数・開催数	172人 4 回	200人 4 回	173人 4 回	200人 4 回
	③	是川縄文館 観覧者数・展覧会開催数	19,226人 4 回	18,000人 4 回	18,604人 4 回	18,000人 4 回
	④	古文書解読講習会 参加者数・開催数	9 人 5 回	15人 6 回	11人 6 回	15人 6 回
	⑤	博物館 観覧者数・展覧会開催数	15,216人 7 回	— 7 回	17,790人 8 回	— 0 回
	⑥	南郷歴史民俗資料館 観覧者数・展覧会開催数	780人 1 回	— 2 回	559人 2 回	— 2 回
	⑦	図書館 各種展示・行事開催	展示74回 行事 7 回	展示35回 行事 5 回	展示42回 行事 7 回	展示70回 行事 8 回
	⑧	読み聞かせボランティアの育成	10回 74人	2 回 40人	2 回 33人	2 回 40人
実 施 内 容	① 【学校等出前講座】					
	・ 社会教育課…市内小学校・認定こども園・保育園・幼稚園で、保護者・教職員・園児・児童を対象に家庭教育や子育てをテーマに講座を開催（計 25 回）					
	・ 是川縄文館…江南小学校への出前授業や是川中学校での野焼き等を実施（計 6 回）					
	・ 博物館 …市内外の小・中学校及び特別支援学校 12 校に合計 17 回の出前授業を実施。「えんぶり」に関する授業を 5 校 10 回、「昔のくらし」に関する授業を 7 校 7 回実施。					
	② 【市民のための歴史講座】					
	図書館・博物館連携事業として、共通のテーマ（令和 6 年度は「書籍と図書館」）を設定し、「市民のための歴史講座」を 4 回開催し、参加者数は合計 173 人だった。					

	③⑤⑥ 【各種展覧会】				
	是川縄文館	是川遺跡の土製品(2,806 人) 縄文の編み/組みの探究(7,860 人) 合掌土偶ができたころ(5,053 人) 是川縄文遺跡の石器・石製品(2,885 人) 計 4 回開催 観覧者数計 18,604 人			
	博物館	きらめく八戸(5,160 人) 境界線上の彼女たち(4,419 人) 新収蔵資料展－Ⅰ期・民俗－(2,385 人) 新収蔵資料展－Ⅱ期・歴史－(1,405 人) ミニパネル展八戸の災害(2,550 人) えと展－へび－(772 人)、 えんぶり展(1,924 人) ひな人形展(2,110 人)、 計 8 回開催 観覧者数(重複を除く※) 計 17,790 人 ※一部の展覧会において開催期間の重複があったため。			
	南郷歴史 民俗資料館	特別展こけし(404 人) ミニコレクション展「そば」(155 人) 計 2 回開催 観覧者数計 559 人			
	④ 【古文書解読講習会】 初心者向けの古文書解読講習会を 6 回実施。				
	③⑤⑥ 【体験講座等】				
	是川縄文館	考古学講座等 8 回 考古学クラブ 7 回 体験講座・教室 14 回 日曜日縄文体験コーナー 51 回 企画展等ギャラリートーク 19 回			
	博物館	特別展講演会 4 回 ギャラリートーク 9 回 体験学習 14 回 館外フィールドワーク 4 回 根城史跡ボランティアガイド養成講座等 8 回 その他 2 回			
	南郷歴史 民俗資料館	特別展講演会 1 回 ギャラリートーク 2 回 特別展併催行事 1 回 体験講座 5 回 体験行事 4 回			
	⑦ 【図書館各種展示・行事開催】 「図書館 150 周年記念展『図書館エトセトラ』」等、テーマ展示を 42 回実施。行事としては、付録抽選会や図書館 150 周年フィナーレイベントとして、朗読会やライブラリーコンサートを開催。				
⑧ 【読み聞かせボランティアの育成】 講習会の内容や実施方法を見直し、読み聞かせに興味のある初心者(中学生以上)が参加できる形に変更し実施。					
総合評価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
	(評価理由・課題) ・各社会教育施設において、地域の資源を活用した多種多様な内容の展覧会や体験講座等を実施し、子どもから高齢者まで幅広い世代に生涯学習の機会を提供することができた。				
今後の方向性	・学びへの意欲を持った市民に対し、多種多様な内容の展覧会や講座を通して、幅広い世代に対応した生涯学習の機会を提供する。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	4 地域の教育力向上と地域コミュニティの基盤強化
中 施 策	(3) 社会教育施設の機能強化
小 施 策	❶ 社会教育施設の機能強化
施策概要	社会教育施設の効果的な活用を維持するため、定期点検や修繕等を適切に実施し、施設の維持管理の適正化を図ります。

主 な 事 業	◆ 教育施設の長寿命化の推進 【社会教育課・是川縄文館・図書館・博物館】 ◆ 児童科学館改修事業 【総合教育センター】				
実 績 等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	公民館 修繕件数	52件	44件	55件
	②	是川縄文館 修繕件数	13件	4 件	21件
	③	図書館 修繕件数	18件	20件	27件
	④	博物館 修繕件数	19件	3 件	17件
実 施 内 容	①公民館では、分電盤の改修、非常用照明設備、消防設備など合計55件の修繕を実施した。 ②是川縄文館では、空調設備、消防設備など合計21件の修繕を実施した。 ③図書館では、自動火災報知設備受信機及び防火シャッター（本館）、空調機冷媒ガス漏洩修繕（南郷）、空調設備室外機（図書情報センター）など、合計27件の修繕を実施した。 ④博物館では、事務室ファンコイル交換修繕と市立民俗資料収蔵庫引込開閉器盤更新、電気温水器修繕、冷温水機発生機インバーター交換などを16件、南郷歴史民俗資料館では、個別施設計画に基づき、収蔵庫棟屋根・外壁塗装工事を1件、合計で17件の修繕を実施した。 ・令和6年4月から6月までは、空調改修・トイレ改修の設備工事のため、児童科学館を休館とし、休館期間中は、隣接する福祉公民館を借りてKIDS工房等の企画を開催した。 また、令和6年10月末から令和7年3月までは、プラネタリウム設備の全面改修のため、プラネタリウムを休止し、同期間は、視聴覚室で「星空アニメーションシアター」を上映した。				
総 合 評 価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
	（評価理由・課題） ・定期点検等を適切に実施することで、施設の状態を適切に確認・把握し、老朽化箇所については計画的に修繕することができた。また、突発的な修繕にも適切に対応し、大規模な改修工事以外では長期に休館することなく、市民サービスを提供することができた。				
今 後 の 方 向 性	・各館の状態を確認、把握し、計画的な修繕を行いながら適正な維持管理を図る。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	5 文化財等の保存と活用の充実
中 施 策	(1) 文化財の保存活用
小 施 策	❶ 史跡の整備活用の推進
施策概要	市民や観光客等に広く史跡に触れてもらうため、史跡の整備を実施するとともに、生涯学習及び観光・まちづくりの拠点としての活用を推進します。

主な事業	◆ 史跡等環境整備事業 【社会教育課・是川縄文館・博物館】 ◆ 是川縄文の里整備事業 【是川縄文館】 ◆ 世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の恒久的保存と価値の伝達 【是川縄文館】 ◆ 史跡根城の広場の活用事業 【博物館】				
実績等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	根城跡整備活用検討委員会等	4 回	4 回	7 回
	②	是川石器時代遺跡 第 1 期整備工事進捗率	20%	60%	60%
	③	根城の広場 来場者数	23,697人	—	22,822人
実施内容	④	根城の広場 事業開催数	21回	18回	18回
	①根城跡では、整備活用検討委員会 2 回、活用ワーキング会議等を 5 回開催し、第 2 次整備基本計画に基づく防災設備改修工事（第 2 期）、復原建物改修工事等を協議しながら実施した。また、主殿改修基本設計（第 1 期）を行った。 ②是川石器時代遺跡第 1 期整備工事（R5 から R7 年度の計画工数 5（設計 3・工事 2））のうち、R6 年度は地形造成工事と基本計画及び基本設計の追補を策定した。 ④史跡根城の広場では、「城の日」イベント 1 回、「史跡根城さくらWeek!」1 回、「根城記念祭」1 回、「根城おもしろ講座」9 回、「鎧と小袖姿で記念撮影（春・秋）」2 回、「収穫祭」1 回、「史跡根城まつり」1 回、「イチョウWeek!」1 回、「えんぶり公演」1 回等を開催した。				
総合評価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
	（評価理由・課題） ・各史跡で草刈り等を行い、適切な環境を維持することができた。 ・根城跡は、整備活用検討委員会や各種ワーキング会議を開催し、防災設備等改修、史跡内未測量地の一部の測量を行うなど、整備に向けた取組を進めることができた。 ・是川石器時代遺跡は、整備検討委員会を開催し、整備基本計画と整備基本設計の追補を策定するとともに、地形造成工事を行うことにより、整備を推進することができた。				
今後の方向性	・根城跡は、第 2 次整備基本計画に基づく整備基本設計及び実施設計により復原建物等の改修を行う。また、公有化事業計画を策定し、R9 年度から史跡指定地内にある民有地の公有化を進める。 ・是川石器時代遺跡は R7 年度に南工区地形造成工事（その 2）と北工区地形造成の実施設計を行い、南工区は R8 年度末、北工区を含めた全体として R11 年度末の完成を目指す。 ・丹後平古墳群及び長七谷地貝塚については、適切に維持管理を行うとともに、引き続き保存と活用に向けた検討を進める。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	5 文化財等の保存と活用の充実
中 施 策	(1) 文化財の保存活用
小 施 策	❷ 文化財・名勝等の保存管理、活用の充実
施策概要	文化財等の適切な保存管理を推進するとともに、広く周知するための活用を図ります。

主 な 事 業	◆ 収蔵資料の保存・活用 ◆ 名勝種差海岸の保護事業 ◆ 天然記念物「蕪島ウミネコ繁殖地」保護事業 ◆ 有形文化財の保存・活用 ◆ 八戸圏域文化財魅力発信事業 ◆ 古文書の整理・解読の推進 ◆ 文化財の収集・保存・調査・活用 ◆ 指定・認定文化財保存活用事業					【是川縄文館・博物館】 【社会教育課】 【社会教育課】 【社会教育課】 【社会教育課】 【図書館】 【博物館】 【博物館】
実 績 等	区 分		R5	R6		R7
			実績	目標・計画	実績	目標・計画
	①	是川縄文館収蔵資料 公開点数	848点	900点	1,086点	900点
	②	〃 修理件数	2 件	1 件	1 件	1 件
	③	博物館収蔵資料 公開点数	2,742 点	2,000点	2,677点	1,700点
	④	〃 修理件数	3 件	3 件	3 件	2 件
	⑤	名勝種差海岸 外来種駆除支援日数	6 日	6 日	8 日	6 日
	⑥	指定文化財 補助金交付件数	2 件	2 件	2 件	2 件
	⑦	解読本の作成冊数	17 冊	10 冊	10 冊	9 冊
	⑧	寄附受納件数・点数	12件 316点	—	14件 734点	—
	⑨	指定文化財修理点数	22点	21点	21点	41点
実 施 内 容	①② 是川縄文館の収蔵資料1,086点（常設展示546点+企画展示540点）を公開し、保存修理を1件（重要文化財是川遺跡出土品6点）を行った。 ③ 博物館の収蔵資料1,827点（常設展示906点+特別・企画展示921点）を公開した。また、南郷歴史民俗資料館の収蔵資料850点（常設展示610点+特別・企画展示240点）を公開した。 ④ 博物館の収蔵資料のうち3件（螺鈿小簞笥1点／絵図面17枚・盛岡城下周辺図一式・八戸廻御代官所絵図1枚／なぎなた・槍各1点）の保存修理を行った。 ⑤ 特定外来生物オオハンゴンソウ駆除ボランティアの支援を8日間行った。 ⑥ 重要文化財建造物の所有者に対して（重文）櫛引八幡宮本殿ほか4棟建造物保存修理事業費補助金、重要文化財清水寺観音堂指定文化財管理事業費補助金を交付した。 ⑦ 図書館で所蔵する古文書のなかで、利用頻度や史的価値の高いものから順に解読を進め10冊を解読した。 ⑧ 博物館の寄附受納による資料収集は9件、523点だった。南郷歴史民俗資料館の寄附受納は5件、211点だった。 ⑨ 博物館では考古収蔵資料のうち、重要文化財丹後平古墳群出土品20点、重要文化財櫛引遺跡出土品1点の保存修理を行った。					

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天然記念物蕪島ウミネコ繁殖地の保護監視を委託により実施したほか、繁殖地の保存活用計画策定に向けて、素案を作成し検討会議を3回開催した。 ・ 八戸圏域文化財魅力発信事業として、市内イベントへ文化財バトルカード体験ブース出店を2回、小学校の出前授業を1回実施し、八戸圏域内全小学校（61校）へ文化財バトルカードセットを配付した。 				
総合評価	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
	a				
	<p>（評価理由・課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定文化財や保存修復計画に基づく収蔵資料の保存修理及び指定文化財補助金交付が目標どおり行われるとともに、名勝の特定外来生物駆除支援が目標以上に実施されるなど、文化財等の適切な保存管理が行われた。 ・ 図書館収蔵古文書の読解本作成が目標どおり行われたことにより活用が容易になり、是川縄文館と博物館の収蔵資料の展示点数が目標以上となった。 ・ 文化財バトルカードを使った文化財魅力発信を含め、文化財等を広く周知するための活用が図られた。 				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も是川縄文館・博物館の収蔵資料や指定文化財等の保存管理や保存修復を計画どおり進め、活用についても一層の充実を図り、文化財等の魅力を広く市民に還元していく。 				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	5 文化財等の保存と活用の充実
中 施 策	(1) 文化財の保存活用
小 施 策	③ 民俗文化財の保存継承の充実
施策概要	民俗芸能等を消滅させることなく後世に伝えるため、伝承者の育成、記録資料の整理・保存等に取り組みます。

主な事業	◆ 民俗文化財の記録公開・保存修理 ◆ 無形民俗文化財後継者養成事業 ◆ 民俗芸能の夕べ開催事業 ◆ 八戸三社大祭ユネスコ無形文化遺産PR事業 ◆ 浜小屋及び漁撈民俗資料の保存・広報事業 ◆ 文化財の収集・保存・調査・活用		【社会教育課】 【社会教育課】 【社会教育課】 【社会教育課】 【博物館】 【博物館】			
実績等	区 分		R5	R6		R7
			実績	目標・計画	実績	目標・計画
	①	無形民俗文化財 補助金交付団体数	10団体	10団体	10団体	10団体
	②	民俗芸能の夕べ 来場者数	310人	500人	510人	500人
	③	八戸三社大祭 周知活動回数	2 回	3 回	3 回	3 回
実施内容	④	重要有形民俗文化財収蔵資料 点検点数	450点	450点	480点	450点
	①無形民俗文化財の保存団体 9 団体に保存活用経費を一部補助した。また、八戸三社大祭に曳きだす山車人形「太公望」の衣装修理事業に補助金を交付し修理事業が完了した。 ③重要無形民俗文化財指定20周年記念事業として、横断幕を作成して三社大祭の行列に参加するとともに、記念講演会等を実施する保存団体へ負担金を支出した。 ③八戸三社大祭小学生向け副読本及び一般向けユネスコ登録周知リーフレットを増刷・配布した。 ④博物館民俗収蔵庫と大久喜地区にある市立民俗資料収蔵庫に保管している重要有形民俗文化財（漁撈用具）1,383点のうち480点の点検作業を行った。 ・市立民俗資料収蔵庫に隣接する浜小屋で浜小屋学習を 3 回実施した。					
総合評価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	1 0 年度	
	a					
	(評価理由・課題) ・無形民俗文化財の保存団体を対象とした補助金交付等の支援が計画どおり実施されるとともに、無形民俗文化財の周知活動や有形民俗文化財の点検が目標以上に実施されたことにより、有形・無形の民俗文化財の保存伝承が図られた。					
今後の方向性	・今後も補助金交付等による無形民俗文化財の担い手支援や、市民等を対象にした民俗文化財の周知活動を充実させる。 ・重要有形民俗文化財の現状確認を進めて修理計画を立案し、恒久的な保存を図る。 ・山車人形衣装の所有者に対する取扱い指導を行い、有形民俗文化財の保存を図る。					

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	5 文化財等の保存と活用の充実
中 施 策	(1) 文化財の保存活用
小 施 策	④ 考古資料と遺跡の調査研究の充実
施策概要	遺跡の記録保存、分析等を行い、その成果として新たな地域の歴史を公開するとともに、資料の活用を推進します。

主な事業	◆ 研究紀要の発行 【是川縄文館・博物館】 ◆ 発掘調査事業 【是川縄文館】				
実績等	区 分		R5	R6	
			実績	目標・計画	実績
	①	是川縄文館 研究紀要刊行数	1 冊	1 冊	1 冊
	②	博物館 研究紀要刊行数	1 冊	1 冊	1 冊
実施内容	③	遺跡調査報告会 参加者数・開催数	60人 1 回	60人 1 回	70人 1 回
	①是川縄文館研究紀要第14号(A4判カラー36頁)を刊行した。 【所収内容】 ・X線CT画像解析による縄文時代の藍胎漆器の技法 ・東北地方北半における縄文時代土器製塩の研究 ②博物館研究紀要第38号(A4判モノクロ56頁)を刊行した。 【所収内容】 ・八戸市松ヶ崎遺跡における廃屋墓出土人骨の鑑定と自然科学分析 ・鹿島沢遺跡出土金属品のX線CT分析 ③是川縄文館では、遺跡調査報告会を開催し、令和6年度の調査成果を市民に公開した。				
	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度
	b				
総合評価	(評価理由・課題) ・両館で、八戸市内の考古資料についての論考を収めた研究紀要を刊行することにより、遺跡の保存と活用の基礎的な取組を推進することができた。 ・遺跡調査報告会を開催することにより、遺跡から八戸の歴史を学べる機会を設けることができた。				
今後の方向性	・遺跡調査報告会の開催や研究紀要の刊行を継続し、考古資料と遺跡の重要性について市民が触れることのできる機会を設ける。				

3 施策ごとの点検及び評価

大 施 策	5 文化財等の保存と活用の充実
中 施 策	(2) 歴史記録の保存活用
小 施 策	❶ 歴史記録の保存活用の充実
施策概要	保存資料の解説、分析等により、今後の文化財等の周知と活用を推進します。

主な事業	◆ 先人周知事業【社会教育課】 ◆ 歴史資料の収集・整理・保存・活用【図書館】 ◆ 古文書解説講習会【図書館】 ◆ 古文書の整理・解説の推進【図書館】					
実績等	区 分		R5	R6		R7
			実績	目標・計画	実績	目標・計画
	①	先人周知のためのパネル活用数	3 件	20 件	18 件	20 件
	②	歴史刊行物の発行	1 冊	1 冊	1 冊	1 冊
	③	古文書解説講習会 参加者数・開催数	9 名 5 回	12名 6 回	11名 6 回	12名 6 回
	④	古文書解説本の作成冊数	17冊	10冊	10冊	9 冊
実施内容	① 貸出や問合せ対応など18件活用したほか、ふるさとの先人に関するパネルを新たに1枚作成し、次年度のふるさと先人パネル展に向けて準備を整えた。 ② 『新編八戸市史』通史編Ⅰを増刷した。 ③ 初心者向けの古文書解説講習会を6回実施。 ④ 図書館で所蔵する古文書のなかで、利用頻度や史的価値の高いものから順に解説を進めた。R6年度は10冊解説した。					
総合評価	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	1 0 年度	
	b					
	(評価理由・課題) ・令和6年度までに作成した99枚のパネルを活用し、先人の功績を紹介することにより、市民の郷土発展の歴史に対する理解が深まり、郷土愛が醸成された。 ・歴史刊行物を発行し、郷土の歴史に対する関心向上を図った。また、保存資料の解説を進め、資料活用を促すとともに、解説する人材の育成を図った。					
今後の方向性	・八戸の歴史に対する市民の興味・関心を高めるため、引き続き、先人パネル等の更なる利活用について検討する。 ・今後も継続的に歴史資料の解説・周知を進めると同時に、解説できる人材育成に努める。					

Ⅲ 学識経験者からの総評

木村 一夫

今年度は第3期八戸市教育振興基本計画に基づいた点検及び評価となり、その項目数や評価方法が昨年度とは変わっているため、一概に過去との比較はできませんが、a～dの4段階評価の結果を見ると、事業全体の着実な進歩と充実が感じられました。これまでの八戸市教育委員会による高い先見性を持った取組、実情に照らした手厚いサポートと迅速な改善策に改めて敬意を表します。

今年度は29の評価項目中の28項目において、“想定した効果・成果が得られた”という報告になっていますので、管理と執行の状況は極めて良好と捉えています。「いのちの教育の充実」、「読書活動の充実」、「教育DXの推進」、「文化財・名勝等の保存管理、活用の充実」、「民俗文化財の保存継承の充実」の5項目は“想定以上”に当たるa評価となっています。これらに含まれる諸事業は開始時期の早晩はあれども、毎年度の反省と改善を積んできたものであり、正に“継続は力なり”を実証するものです。

例えば、「教育DX」という文言は目新しいもののように映りますが、その中身はこれまでの行政から現場へのサポートそのものです。文部科学省は教育DXの推進に関して、教育データの標準化、基盤的ツールの整備、教育データの分析・利活用の推進を挙げています。このことについて八戸市は全国的に見ても早い時期に導入しており、学校現場ではより効率的かつ効果的な教育が進められています。

評価項目の中で「学校施設の整備」だけがc評価になっていますが、これは決して低いものではなく、「改善の余地あり」に着眼した前向きな評価と捉えています、この項目は多額の予算を伴うものであるため、容易に充実できるものではありません。関係課の御苦勞が偲ばれます。

以上のことは、担当課から届けられた検討資料の文字や数値だけを基に述べたものではなく、実際の見聞による部分もあります。私は現在の仕事柄、中学校を訪問する機会がたびたびあります。その際に先生方との会話を通して「学校は変わってきている」ということを実感しています。

今後の学校教育、社会教育、文化・歴史の保存継承の更なる充実に向けて、各事業の成果を対象主体と共有した上で、それを積極的かつ効果的に発信することを望みます。八戸市教育委員会の職員の皆様一人一人の御健勝と御活躍を切に願い、総評を結びます。

川本 菜穂子

令和6年2月に策定された第3期八戸市教育振興基本計画に対する、初めての点検・評価が行われました。多岐にわたる教育行政に関わり御尽力いただいた関係各位の皆様にご心から感謝申し上げます。

29項目の施策内容を拝見しますと、単年度内での目標に対し、コロナ禍を経た経験からの新しい取組が、様々な連携を取りながら共同で推進されたことが読み取れました。

「持続可能な社会を創るための資質・能力の育成」、「学びを支える学習環境・指導体制等の整備」などでは、子どもたちを育てるだけではなく、保護者・教員等の教育に携わる側のスキルアップにつながる試みの推進も進んでいるようです。実施内容と総合評価からだけで判断するには読み取れない部分もあり、社会状況等も考慮すると、自己評価に遠慮が見られるのかな、という部分がありました。

環境整備について、実施内容には常に検討・改善の余地があるものや、人口減少・少子化もあり、数値だけで一概に評価してよいのか悩ましい項目もあります。目標数値の根拠や表現法について、母数の変化を踏まえた再考が必要かもしれません。市内でも民間による子どもの様々な居場所づくりが進んでおり、教育現場の支援体制の充実からも官民が連携した活動の推進がますます必要です。少子化傾向ではありますが、生活圏内で子どもたちが安心して暮らせる教育設備・環境の提供が必要と思われます。

「地域の教育力向上と地域コミュニティの基盤強化について」、スポーツ・文化芸術活動の推進の点検項目には含まれていませんが、プロスポーツや音楽、美術館でのワークショップ等を始めとした、部活動の範囲にとどまらない地域活動の影響が、実感として観光や県外にいる地元出身者のふるさと愛にも波及しているように思われます。

最後に、子どもが置かれた家庭環境は、常に社会の経済状況に左右されます。義務教育は大事なひとつづくりの場である、ということの初心に帰り、学びの場と食が誰にも平等である環境の充実のため、教育行政がますます推進されますことを期待して総評とします。

IV 參考資料

1 持続可能な社会を創るための資質・能力の育成

(1)確かな学力の育成

①次世代を担う人材育成

No.	事業名	事業概要	担当部署
1	青少年海外派遣交流事業	青少年の海外派遣及び青少年の海外からの受入れを行い、学校訪問等を通じて交流活動を行う。	教育指導課
2	教員海外派遣交流事業	中国蘭州市へ小・中学校教職員を派遣するほか、蘭州市より教職員を受け入れ、視察や交流活動を行う。	教育指導課
3	南部藩ゆかりの都市との交流事業	八戸市、岩手県遠野市の小学校6年生児童の相互交流を行う。	教育指導課
4	こころのプロジェクト「夢の教室」事業	様々なジャンルのアスリートを迎え、実体験等に基づく授業を通じて小学生に「夢を持つこと」の大切さを伝え、失敗を乗り越えて夢や目標に向けて努力しようという意識や態度を育むとともに、プロの選手に触れる機会を与えることで、スポーツに親しむ心や向上心を高める。	教育指導課
5	STEAM教材開発事業	JAMSTEC（国立研究開発法人海洋研究開発機構）と共同で「海洋STEAM教材」の開発を行う。	教育指導課
6	国際理解教育・英語教育推進事業	ALT（外国語指導助手）を市立全小・中学校へ派遣し、小学校の外国語科（英語）・外国語活動の授業や中学校の外国語科（英語）、国際理解教育に係る授業への補助及び市民公開研修（市民英会話教室）の講師等を行う。	総合教育センター

②主体的・対話的で深い学びを実現する授業の展開

No.	事業名	事業概要	担当部署
7	学校訪問(計画訪問・要請訪問)	市立全小・中学校に対して、計画訪問を年1回行う。要請訪問は、研究授業や一般研修等について、学校の要請に応じて行う。	教育指導課
8	学力実態調査の活用	小学校5・6年生と中学校1～3年生の学力等を把握し、各学校での分析・活用を支援するとともに、関係諸事業に活用する。	総合教育センター
9	教科等研究委員制度	八戸市の教育課題の解決に迫るために、研究分野等を見直し、市内教職員に委嘱して研究を進めるとともに、その成果を活用する。	総合教育センター
再掲 No.6	国際理解教育・英語教育推進事業	ALT（外国語指導助手）を市立全小・中学校へ派遣し、小学校の外国語科（英語）・外国語活動の授業や中学校の外国語科（英語）、国際理解教育に係る授業への補助及び市民公開研修（市民英会話教室）の講師等を行う。	総合教育センター

③校種間連携の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
10	幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小学校との連携推進事業	代表者会議や研修講座等を開催し、幼稚園・保育所(園)・認定こども園・小学校の教職員及び保育者等が、子どもの発達や互いの教育内容について理解し、連携を深める。	教育指導課
11	小・中学校ジョイントスクール	コミュニティ・スクールの一環として、各中学校区で小・中学校の教職員間の情報交換や児童と生徒の交流会、児童の中学校訪問、生徒の小学校訪問などを実施する。	教育指導課
再掲 No.53	コミュニティ・スクール推進事業	保護者及び地域住民が学校運営に参画する「地域学校連携協議会」（学校運営協議会）を設置し、地域住民等との連携・協働による「地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクール）」を推進する。 学校にコーディネーターを配置し、学校支援ボランティアの活用等により「地域学校協働活動」を支援する。	教育指導課

(2)豊かな心の育成

①いのちの教育の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
12	学校飼育動物ネットワーク支援事業	小動物との触れ合いや学校獣医師による講話を通して、児童に豊かな心（思いやりの心、生物愛護・生命尊重の態度等）を育むために、学校飼育動物の飼育管理等について、地域の獣医師(八戸市学校獣医師)等と連携したネットワークを構築する。	教育指導課
13	いのちを育む教育アドバイザー事業	生徒が自己の性に対する認識をより確かなものにするための専門的な指導を行い、性に関わる諸問題に対して適切に判断し対処できる資質や能力の育成を支援する。	総合教育センター
14	ネット情報モラル支援事業	児童生徒の安全なインターネットの利用や情報活用能力の向上のために、学校への講師派遣、講演に係る費用の補助等により、学校でのインターネット教室の開催を支援する。	教育指導課

②体験学習の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
15	青少年の地域活動の推進事業	中学生や高校生がボランティア活動を通して様々な体験活動を行う。	教育指導課
16	広域的体験学習支援事業	八戸圏域連携中枢都市圏内の児童生徒が、圏内にある公共施設を活用した体験学習や地域企業等を訪問しての社会体験活動を行う際のバス借上料や施設入館料を補助する。	教育指導課
17	体験！一日図書館員	児童生徒を対象に、図書館をより知ってもらい本に親しんでもらうため、本の貸出しや返却等の図書館の仕事を体験する講座を開催する。	図書館
再掲 No.1	青少年海外派遣交流事業	青少年の海外派遣及び青少年の海外からの受入れを行い、学校訪問等を通じて交流活動を行う。	教育指導課
再掲 No.3	南部藩ゆかりの都市との交流事業	八戸市、岩手県遠野市の小学校6年生児童の相互交流を行う。	教育指導課

③読書活動の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
18	学校図書館支援事業	教育指導課に学校司書を配置し、市立全小・中学校に派遣する。	教育指導課
19	マイブック推進事業	市立全小学校及び特別支援学校小学部の児童にマイブッククーポンを配り、小学生が書店に出かけ自ら本を選び購入する。本への興味・関心を高めるため、ブックトークを実施する。	教育指導課
20	「ひらく・楽しむ」新聞活用事業	市立全小・中学校に複数紙分の新聞購読料を配分し、各学校における新聞活用を推進する。	教育指導課
21	学校図書館ネットワーク事業	市立全小・中学校の蔵書の登録・点検や貸出業務等、蔵書管理と事務の効率化を推進する。 図書ネットワークシステムで結んだ小・中学校図書館及び総合教育センターの蔵書の相互貸借を実施する。	教育指導課
22	ブックスタート事業	総合健診センターで行われる先天性股関節脱臼検診時に、対象の親子にボランティアによる絵本の読み聞かせを行い、ブックスタートパックを手渡す。	図書館
23	おはなし会	ALT（外国語指導助手）を市立全小・中学校へ派遣し、小学校の外国語科（英語）・外国語活動の授業や中学校の外国語科（英語）、国際理解教育に係る授業への補助及び市民公開研修（市民英会話教室）の講師等を行う。	図書館
24	読み聞かせボランティアの育成	読み聞かせボランティア育成のため、定期的に講座を開催する。	図書館
25	学校図書館出前講座	図書に関する理解や関心を深めてもらうため、図書館職員が小・中学校へ出向き、児童生徒や教職員、学校図書館ボランティアを対象に図書の分類や修理、読み聞かせ等について講座を開催する。	図書館

(3)健やかな体の育成

①学校保健・食育の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
26	学校保健委員会の設置・活用	各校における学校保健委員会の設置を進め、学校と家庭・地域・関係機関が連携した、児童生徒の健康に関する課題の解決を図る。 食育や歯科保健、ゲームやインターネット利用等のテーマについて、学校医や保健師等の外部人材の活用を図り、話し合いを行う。	学校教育課
27	学校給食事業	安全安心な栄養バランスの取れたおいしい給食を提供する。 給食食材における地場産品の活用、郷土食などの地域の食文化の継承に努める。 食物アレルギー対応食を提供する。 新給食センターの整備を進める。	学校教育課
28	食育の推進	栄養教諭や学校栄養職員を活用した食に関する指導の充実を図る。 給食センター施設を活用した食育を推進する。	学校教育課

②体力の向上

No.	事業名	事業概要	担当部署
29	「八戸市児童生徒の健康と体力」の刊行	定期健康診断の集計結果及び全国・県との比較、文部科学省が導入している新体力テストの結果の集計及び全国・県との比較、学校管理下災害(負傷等)の態様の集計結果をまとめて刊行する。	学校教育課

2 共生社会の実現に向けた支援の充実

(1)多様な教育ニーズへの対応

①特別支援教育の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
30	特別支援教育アシスト事業	特別な教育的支援を必要とする児童生徒が在籍する学校に特別支援アシスタントを配置する。 研修会等を実施し、アシスタントの資質向上を図り、個々の教育的ニーズに応じた支援を行う。	こども支援センター
31	特別支援教育推進事業	小・中学校からの依頼を受け、主任指導主事等及び学校体制支援アドバイザー、専門指導員による巡回相談を実施し、支援方法や支援体制に関わる指導助言を行う。 幼稚園・保育所（園）・認定こども園からの依頼を受け、幼児教育アドバイザー及び幼児相談員による巡回相談を実施し、支援方法や支援体制に関わる指導助言を行う。 子育てや子どもの発達、就学に関わる保護者の相談に対応する。ことばの発達等に心配のある幼児の保護者等に、適切な対応方法等について助言を行う。	こども支援センター
32	特別支援教育看護支援員配置事業	医療的ケアを必要とする児童生徒の支援体制の充実と安全な学習環境を整備するため、看護師又は准看護師資格のある支援員を配置する。	こども支援センター
33	特別支援教育推進事業委託	特別支援学級に在籍する児童生徒を対象に、八戸市特別支援教育研究会へ委託し、ふれあい遠足やふれあい宿泊学習、ふれあい作品展等の実施及び文集「はまぼうふう」の発行等を行う。	こども支援センター

②子どもに関する相談・支援体制の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
34	日本語教育支援事業	NPO法人等と連携し、外国籍児童生徒及び帰国児童生徒の日本語学習を支援する。	学校教育課
35	いじめの問題に対する取組	各学校における、いじめの未然防止と早期発見、早期対応及び継続的指導等に関する取組を支援する。 いじめ問題に児童が主体的に取り組めるよう、小学生対象の「いじめ問題等に関する対話集会」を開催する。	教育指導課
36	スクールソーシャルワーカー配置・派遣事業	いじめや不登校等、児童生徒が抱える課題を解決するために、学校、家庭、関係機関とのネットワークの構築や児童生徒への支援を行うスクールソーシャルワーカーを配置・派遣する。	教育指導課
37	少年相談センター事業	巡回指導、少年指導員の研修、少年相談、社会環境調査のほか、広報紙「かがみ」の発行を行う。	教育指導課
38	教育相談・適応指導教室事業	幼児児童生徒・保護者・教職員を対象に子育てや教育に対する相談・支援を行う。 不登校状態の児童生徒に対して、学習支援や適応指導を行う。 集団不適応状態にある児童に対して、小集団活動を通して適応支援を行う。	こども支援センター
39	教育支援業務	八戸市教育支援委員会を設置し、障がいのある又は特別な教育的支援を必要とする児童生徒等の適切な就学及び支援を審議する。	こども支援センター

(2)経済的支援の充実

①奨学金事業の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
40	八戸市奨学金制度	高等学校及び大学などの学生に対する奨学金の貸与又は給付を行う。	学校教育課

②就学前・高等学校教育への支援

No.	事業名	事業概要	担当部署
41	私立幼稚園補助金制度	市内の学校法人が設置する私立幼稚園及び認定こども園に対して、教材・教育備品の整備及び施設・設備の整備等に要する費用を助成する。	学校教育課
42	私立幼稚園教員研修費補助金制度	八戸市私立幼稚園協会に対して、教職員の資質向上、幼稚園協会の振興と充実を図るための事業に要する費用を助成する。	学校教育課
43	私立高等学校助成補助金制度	市内の私立高等学校・私立中高一貫校に対して、教材・教育備品の整備及び施設・設備の整備等に要する費用を助成する。	学校教育課

3 学びを支える学習環境・指導体制等の整備

(1)安全・安心な環境の整備

①学校施設の整備

No.	事業名	事業概要	担当部署
44	学校施設の長寿命化の推進	学校施設の長寿命化計画を策定するとともに、危険な部分の改修や老朽化した部分の修理などの整備を行う。	教育総務課

②学校規模・配置の適正化

No.	事業名	事業概要	担当部署
45	小・中学校適正規模・配置事業	児童生徒の教育環境の充実を目的として、通学区域の見直しや学校の統合などについて、それぞれの学校にとって最善の手法を検討し、実施する。	学校教育課

③防災教育の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
46	防災教室支援事業	学校の防災教室等に防災士、消防士、高等教育教職員等を派遣し、学校の防災教育を支援する。	教育指導課
47	防災教育副読本導入事業	防災教育副読本「防災ノート」を市立全小・中学校（対象学年のみ）に配布する。また、各学校における授業実践等を通して、防災ノートの効果的な活用方法を研究する。	教育指導課

(2)指導・運営体制の充実

①教職員研修の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
48	小学校英語専科指導教員研修会	定期的に研修会を開催し、小学校英語専科指導教員の指導力向上を図る。	教育指導課
49	教職員研修事業	八戸市教育委員会「学校教育指導の方針と重点」を踏まえ、教職員の資質向上、市の教育課題や現代的な課題に対応するための各種研修を実施する。	総合教育センター

②支援スタッフの充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
50	理科観察実験支援事業	小学校へ「観察実験アシスタント」を派遣し、理科室や理科準備室等の環境整備、理科の観察・実験の準備・片付け、理科の授業における教職員への補助等を行う。	総合教育センター
再掲 No.6	国際理解教育・英語教育推進事業	ALT（外国語指導助手）を市立全小・中学校へ派遣し、小学校の外国語科（英語）・外国語活動の授業や中学校の外国語科（英語）、国際理解教育に係る授業への補助及び市民公開研修（市民英会話教室）の講師等を行う。	総合教育センター
再掲 No.18	学校図書館支援事業	教育指導課に学校司書を配置し、市立全小・中学校に派遣する。	教育指導課
再掲 No.34	日本語教育支援事業	NPO法人等と連携し、外国籍児童生徒及び帰国児童生徒の日本語学習を支援する。	学校教育課
再掲 No.36	スクールソーシャルワーカー配置・派遣事業	いじめや不登校等、児童生徒が抱える課題を解決するために、学校、家庭、関係機関とのネットワークの構築や児童生徒への支援を行うスクールソーシャルワーカーを配置・派遣する。	教育指導課
再掲 No.55	小・中学校スポーツ・文化的活動支援事業	小学校スポーツ活動・文化的活動及び中学校部活動への支援を通して、児童生徒がスポーツや文化的活動に親しむ環境づくりを行う。	学校教育課

③教育DXの推進

No.	事業名	事業概要	担当部署
51	GIGAスクール構想推進事業	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るため、ICTの効果的な活用事例等の情報提供、支援研修など、教職員の指導力向上に向けた取組を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力育成のために、1人1台端末利活用の日常化を促進する。	総合教育センター
52	校務DXの推進	校務支援システムの活用等の校務DXを通じて、教職員の働き方改革を推進するとともに、各種データを学校経営や学習指導に利活用する取組を推進する。	総合教育センター

4 地域の教育力向上と地域コミュニティの基盤強化

(1)学校・家庭・地域の連携・協働

①コミュニティ・スクールの推進

No.	事業名	事業概要	担当部署
53	コミュニティ・スクール推進事業	保護者及び地域住民が学校運営に参画する「地域学校連携協議会」（学校運営協議会）を設置し、地域住民等との連携・協働による「地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクール）」を推進する。 学校にコーディネーターを配置し、学校支援ボランティアの活用等により「地域学校協働活動」を支援する。	教育指導課
再掲 No.64	学校等出前講座の開催	小・中学校や地域の施設等において、地域資源を活かした講座を開催する。	社会教育課 是川縄文館 博物館

②家庭の教育力の向上

No.	事業名	事業概要	担当部署
54	家庭の教育力充実事業	教育関係者及び子育て中の保護者を対象とした家庭教育研修会、幼稚園・保育所（園）・小・中学校及びPTAを実施主体とした、家庭教育に関する講座「子育て・親育ち講座」を実施する。 児童科学館・公民館・図書館・博物館においても、子育てに関する学級や、親子で学習する講座など、各施設の特性を生かした講座を開催する。	社会教育課 図書館 博物館

③スポーツ・文化的活動の支援

No.	事業名	事業概要	担当部署
55	小・中学校スポーツ・文化的活動支援事業	小学校スポーツ活動・文化的活動及び中学校部活動への支援を通して、児童生徒がスポーツや文化的活動に親しむ環境づくりを行う。	学校教育課

(2)生涯学習の充実

①多様な学習機会の提供

No.	事業名	事業概要	担当部署
56	八戸市民大学講座	各分野における専門家や八戸市に縁のある方などを講師に迎えた講座を開催する。	社会教育課
57	公民館講座の開催	ALT（外国語指導助手）を市立全小・中学校へ派遣し、小学校の外国語科（英語）・外国語活動の授業や中学校の外国語科（英語）、国際理解教育に係る授業への補助及び市民公開研修（市民英会話教室）の講師等を行う。	社会教育課
58	市民公開研修の開催	一般市民を対象に、現代的な諸課題の解決や、教養を高めるための研修を開催する。	総合教育センター
59	児童科学館各種体験活動	児童科学館にある設備の活用や発明クラブ、わくわくサイエンスなどを通じた体験活動の充実に努めるとともに、講師を招いた学習会を開催する。	総合教育センター
60	青少年のための科学の祭典 八戸大会	幼児児童生徒の「科学する心」の育成を図るため、青少年のための科学の祭典を開催する。	総合教育センター
61	視聴覚センター各種体験活動	プラネタリウム、展示コーナーなどによる体験活動を支援するほか、天文クラブ、映像利用学習会、星空観望会などを開催する。	総合教育センター
62	図書館の利用促進	子どもから大人まで、それぞれの世代が求める多種多様な資料の収集と広報活動の充実を図る。 図書館本館・南郷図書館・図書情報センターの相互利用や、移動図書館車の巡回、分室の運営などにより、市民が利用しやすい図書館づくりに努める。	図書館
63	「調べる学習コンクール」の開催	子どもたちの調べる力向上の一助となり、図書館の利用促進につながるよう、児童生徒を対象に、図書館の資料を使った調べる学習コンクールを開催する。	図書館

②講座・展覧会等の開催

No.	事業名	事業概要	担当部署
64	学校等出前講座の開催	小・中学校や地域の施設等において、地域資源を活かした講座を開催する。	社会教育課 是川縄文館 博物館
65	市民のための歴史講座	郷土の歴史に対する理解や関心を深めてもらうため、博物館と図書館で共通のテーマを設け、市民を対象に歴史に関する講座を行う。	図書館 博物館
66	是川縄文館各種展覧会・体験講座等開催事業	遺跡に関連する特別展、企画展のほか考古学や体験学習に関する講座を開催する。また、サポートスタッフ研修会を開催し、館事業に活用する。	是川縄文館
67	図書館各種展示・行事開催事業	図書館資料の活用及び図書館の利用促進を図り、多様な学習や読書の楽しみを知るきっかけづくりのため、様々なテーマでの企画展示及び読書週間行事やリサイクルフェア等を開催する。	図書館
68	古文書解読講習会	郷土の先人たちの記した文字「くずし字」を読み解きながら、古文書をもとに八戸の歴史を学ぶ講座を行い、学習の場を提供するとともに、古文書解読ができる人材を育成する。	図書館
69	博物館・南郷歴史民俗資料館各種展覧会・体験講座等開催事業	考古・歴史・民俗の各分野に係わる特別展・企画展のほか、博物館クラブ等の体験講座や講演会を開催する。また、根城史跡ボランティアガイドを養成するための講座を開催する。	博物館
再掲 No.24	読み聞かせボランティアの育成	読み聞かせボランティア育成のため、定期的に講座を開催する。	図書館

(3)社会教育施設の機能強化

①社会教育施設の機能強化

No.	事業名	事業概要	担当部署
70	教育施設の長寿命化の推進	教育施設の長寿命化対策のため、危険な部分の改修や老朽化した部分の修理などの整備を行う。	社会教育課 是川縄文館 図書館 博物館
71	児童科学館改修事業	老朽化した施設・設備を改修し、利用者の利便性を図るとともに、時代に即した科学館に整備する。	総合教育センター

5 文化財等の保存と活用の充実

(1)文化財の保存活用

①史跡の整備活用の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
72	史跡等環境整備事業	長七谷地貝塚、是川石器時代遺跡、丹後平古墳群、根城跡の4史跡の環境整備に努める。	社会教育課 是川縄文館 博物館
73	是川縄文の里整備事業	是川遺跡の発掘成果をもとに、「縄文の里」を生涯学習及び観光・まちづくりの拠点として整備するとともに、是川遺跡や縄文文化に関する情報を発信する。	是川縄文館
74	世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の恒久的保存と価値の伝達	世界遺産となった是川石器時代遺跡の経過観察や環境整備により恒久的保存を行うとともに、PRやソフト・ハード整備により価値の伝達を図る。	是川縄文館
75	史跡根城の広場の活用事業	中世の城館である史跡根城跡を紹介するとともに、復原・整備された史跡を活用して、「根城おもしろ講座」など各種事業を開催する。	博物館

②文化財・名勝等の保存管理、活用の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
76	収蔵資料の保存・活用	各館が収蔵する資料の保存・公開・貸出し・活用に努める。南郷歴史民俗資料館においては、福祉施設等に貸し出し、回想法による活用を図る。	是川縄文館 博物館
77	名勝種差海岸の保護事業	パトロールによる監視、増殖が問題となる植物の駆除、周知看板の設置などを行う。	社会教育課
78	天然記念物「蕪島ウミネコ繁殖地」保護事業	ウミネコ飛来時期における保護監視、蕪島の環境整備を行う。	社会教育課
79	有形文化財の保存・活用	文化財建造物等の有形文化財に対し、修理・防火設備点検などに要する経費の一部を補助する。	社会教育課
80	八戸圏域文化財魅力発信事業	八戸圏域（8市町村）の活性化及び文化財の保存伝承を図るため、コンテンツ等の作成により、圏域の文化財について一体的に周知・活用を行う。	社会教育課
81	古文書の整理・解読の推進	古文書を良好な状態で整理・保存するとともに、八戸藩の日記などを解読・製本することにより、市民が利用しやすい態勢を整え、文化財活用を推進する。	図書館
82	文化財の収集・保存・調査・活用	考古・歴史・民俗の各分野における、収蔵文化財及び収蔵候補資料（寄贈等）に係る調査と来歴等の歴史的評価を行うとともに、恒久的な保全と更なる活用を図る。	博物館
83	指定・認定文化財保存活用事業	指定文化財と認定文化財（発掘調査出土資料）の更なる活用を図るため、保存修理及び整理作業、活用事業を実施する。	博物館

③民俗文化財の保存継承の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
84	民俗文化財の記録公開・保存修理	民俗文化財の詳細な調査記録の実施とともに、調査成果を公開・活用する。 民俗文化財所有者が行う文化財保存修理事業に係る一部経費への補助を行う。	社会教育課
85	無形民俗文化財後継者養成事業	無形民俗文化財の保存と伝承のための補助及び育成支援を行う。	社会教育課
86	民俗芸能の夕べ開催事業	市内の民俗芸能団体に発表する機会の提供と市民への公開を行う。	社会教育課
87	八戸三社大祭ユネスコ無形文化遺産PR事業	ユネスコ無形文化遺産である八戸三社大祭の各種周知活動を行う。	社会教育課
88	浜小屋及び漁撈民俗資料の保存・広報事業	地元保存会による浜小屋のいぶしや学芸員による資料点検などの保全管理を行うとともに、周知活動の充実に努める。	博物館
再掲 No.82	文化財の収集・保存・調査・活用	考古・歴史・民俗の各分野における、収蔵文化財及び収蔵候補資料（寄贈等）に係る調査と来歴等の歴史的評価を行うとともに、恒久的な保全と更なる活用を図る。	博物館

④考古資料と遺跡の調査研究の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
89	研究紀要の発行	八戸市の文化財を中心に、調査研究の成果を年度ごとに公表し、文化財の保存と活用に役立てる。	是川縄文館 博物館
90	発掘調査事業	各種開発による工事着工前に発掘調査及び試掘調査を実施し、埋蔵文化財の記録保存を図るとともに、その成果の公開に努める。	是川縄文館

(2)歴史記録の保存活用

①歴史記録の保存活用の充実

No.	事業名	事業概要	担当部署
91	先人周知事業	八戸市ゆかりの先人の功績をまとめたパネル・ホームページを活用し、公開により周知を図る。	社会教育課
92	歴史資料の収集・整理・保存・活用	八戸市の歴史に関する資料を収集・保存し、目録を作成する。また、作成した目録のデジタル公開を行い、資料の活用を推進する。	図書館
再掲 No.68	古文書解読講習会	郷土の先人たちの記した文字「くずし字」を読み解きながら、古文書をもとに八戸の歴史を学ぶ講座を行い、学習の場を提供するとともに、古文書解読ができる人材を育成する。	図書館
再掲 No.81	古文書の整理・解読の推進	古文書を良好な状態で整理・保存するとともに、八戸藩の日記などを解読・製本することにより、市民が利用しやすい態勢を整え、文化財活用を推進する。	図書館